特20
89
№5056

江馬春熙譯纂

安敎藏

假名附
挿画平

# 通俗亜米利加史

四編

學知軒藏版

學知軒藏版評

挿画平假名附通俗亞米利加史第四編

目錄

亞米利加殖民の期限第四
英吉利の殖民佛蘭私人と戰爭を始むる事
〔附〕扶蘭克林の事
英將貌刺度獨苦出陣の事
英吉利の殖民と佛蘭私人との戰爭の事〔續〕千七百五十年より同五十八年ゑ至る
英吉利の殖民と佛蘭私人との戰爭の事〔續〕千七百五十九年より同六十年ゑ至る
土人の酋長封智亞屈戰爭の事
英吉利殖民の風俗及び其狀態の事

## 亞米利加大革命由來の事



挿畫平假名附

# 通俗亞米利加史第四編

江馬春熙譯纂

## 亞米利加殖民の期限第四

英吉利の殖民佛蘭私人と戰爭を始むる事

〔附〕扶蘭克林の事

曩に Washington ハ佛蘭私人が土人を防かん用意にとて英吉利殖民の領内を拵拵なく砦を築き無法の擧動を施せしより其權利を保護せん爲めに使命を帶びて遙々と佛蘭私人の砦に赴き嚴しく談利を開きしも佛蘭私人ハ中々に受け引く景色更になく終に雙方の折合も全く爰に整わずして空しく其場を引き返へせしが佛蘭私人ハ引續きて傲慢無禮の所業を行ひ英吉利領内の殖民を惱ますことの度重なりしが千七百五十四年後桃園天皇にいよ〳〵戰を開くべき時こそ爰に至れりとて特に Virginia の同勢ハ銘々自から武器を用意し Ohio 會社よりハ現在に Pittsburg の都市を建つる

Alleghany と Monongahela と云へる河筋の間に於て一ッの砦を築き初めしゐ當時 Virginia の政治官 Dinwiddie ハ一隊の兵士を爰に送りつゝ其職工の仕事を警護せしめ且つ佛蘭私人を防がんとの目的を以て兵士を募り其指揮官を Washington ゐ命して之を採出したり但し英吉利領の各地に住みし他の殖民も兵隊を送りて爰に力を合せ共に齊一く進まんとの約束なりしも來會の景色ハ一向あかりしより Washington ハ待つ間もあらず大胆にも少數の兵士を率ひて不毛の原野を進みしが固より開けし道あらず石を踏み草を分ち困苦と嘗めて徐々と漸く半分の旅路を遂げしに砦ハ既に職工の三十三人と諸共に佛蘭私人の手に取られ却て佛蘭私人ゲ自分の用に供へんため ゐ修復していとも堅固の砦となし之を Du Quensne の砦と名づけて當時 Canada の政治官が名譽とこそハ爲ーたりけり Washington ハ丁度其年の五月二十八日に Red Stone と名づけたる一ッの塲處に到着せしに佛蘭私人の一組と之に附属する印度土人ハ俄に Washington を攻め蒐けしも却て爰に敗軍して其十二人ハ此塲に殺され二



十二人ハ囚虜とせられたり Washington ハ囚虜の者より佛蘭私の軍勢一千人ハ之に附属の土人を率ひ今 Ohio 河の傍に在りと聞き傳へしも臆する色なく尚前途に進みしに兼ねて親しき印度土人の Half king が Washington を援け來らんとの使者を得て危難の中にも力を增し Great Meadows と名つけたる一ッの塲處に來りしが今ハ眞近く佛蘭私人の屯營ゐ向ひしことなれゞ Washington ハ速に一ッの砦を此地に築き手づから土を持運びて漸く之を成就せしより Necessity 要用の義の砦と名づけたりそれより Washington ハ尚も進みていとも眞實なる Half king に心娛しく面會せしに Half king ハ佛蘭私人が最も手強き勢に勞れ來りし英吉利の同勢を打たんと待ち擣へしハ恐らく夜討を仕掛るゐらんと Washington に向て說き示せし言詞も來だ終らざりーに佛蘭私人ハ既に早や襲ひ蒐らん權幕を見るより愧忙 Half king ハ Washington の同勢を土人の列に入れ交せて黑白も分たぬ雨の夜を幸ひ設けし岩石の間に挾まる陳屋に誘ひしが同勢ハ大に心を体め暫し休息の眠に就きしに何そ圖らん佛蘭

私人ハ既ニ此場ニ迫リ來テ鉄砲ノ先キヲ差シ向ケシニ Washington ハ咄嗟ト刎ネ起キ打テト一聲号令ノ下ニ自ラ手ニ持チシ鉄砲ヲ取テ放チシニ兵士ハ得タリト立チ並ビ一時ニ放チシ鉄砲ノ口ニ向ヒシ佛蘭私ノ司令官ナル Jumonville ハ九人ノ兵士ト共ニ打たれ二十一人ハ囚虜とせられて僅ニ十五分時の戰ヲ散々となりて引キ揚けたりぎれども Washington ハ今ハ早や危難の場合ヲ迫リ來て他の同勢と Ohio の親しみ深キ印度土人が援兵の來るを待ちしかども一向到着の模樣も見へず使者を送りて催促せしニ南 Carolina より一百人漸ク爰ヲ到着せし外ハ尙も援兵の何時來らんと も計り難く同勢合せて三百人爰ヲ砦を衛りしニ Washington ハ其年の六月三日ニ佛蘭私人が今や襲ひ來らんとの注進を聞きて氣遣ひし時をも俟たず六百人の佛蘭私人と百人の土人ハ共ニ Washington が衛りし砦ニ攻め寄けたり時に佛蘭私方の土人們ハ木の枝岩角ニ攀ち上リ砦の内ニ鉄砲を隙間もあらず打ち下せしニ砦の内よりも之ヲ應し敵の大將に目を注キて一時ニ放ちし鉄砲のいとも凄まじき響と煙ハ恰度火山の穴よりして吹き出したる焰の如く午前の十時より午後八時の日暮し時まで雙方より急をも繼かず戰ひしが敵の二百人ハ此場ニ斃され中々破るゝ氣色ナシのりしニ佛蘭私の將官 Villiers ハ最早勇氣も撓み來て休戰の旗を贈り越しいとも軍事の面目を以て退軍すべきを申し込みしニ Washington ハ容易く受け引き其明朝の黎明頃ニ砦を出でゝ恙なく Virginia の都府 Williamsburg に徐々兵士を引揚げしに其政治官ハ Washington が縱令其場に目的を達する時期ハ至らざりしもいとも大勇の擧動を以て佛蘭私人の膽を冷やせし日常ならぬ効績ありとて各々之ヲ謝意を表し其兵士にハ賞譽として一挺宛の短銃を與へたりそも此砦を防ぎしハ當時僅ニ三百人の同勢なりしも死傷少なく唯十二人のみ失ひしとなん

但し佛蘭私人と其附屬の印度土人ハ英吉利の殖民に向て絶へ間もなく尙領地の界ヲ迫りてます〳〵戰を挑みしニ英吉利殖民の同勢ハいよ〳〵佛蘭私人の無禮を怒りて之ニ對するの勇氣を倍し防禦の目的を一致せんとて千七百五十四年我桃園天皇恰も寶暦四年

Washington が歸陳せし七月第四の日より於て各地の同勢より委員を撰み Albany と云へる處より集會して各々一致の目的を協議を盡して調印せしい Massachusetts, New york New Hampshire, Rhode 島 Maryland 及び Pennsylania 等の同勢なりしが此一致の事に就ていい種々の異論も起り來て容易に治まる氣色なかりしも此場より意見を捧げ來て終より同勢の一致を定めしい乃ち Benjamin Franklin と云へる人ありそれより各地の同勢いい其地の廣狹より隨ひて二人乃至七人の總代を撰み毎年 Philadelphia に集會の時日を期して政治の法則役員の進退金銀の發行土人との交易商業の規則租稅の增減兵隊の募集及び新に民を殖もる支配の事等を評議せしめ其他い各地銘々より民を殖へたる處を支配し獨立の姿を持ち運びしいいとも公平のことゝありたり

そも此 Benjamin Franklin いい曾て千七百六年我東山天皇の寶永三年の一月十七日亞米利加州の Roston に生れ父いい石鹸と蠟燭を製する賤やーき家業ありしも其子の Franklin に政治上の役を取らせん望みゝて勉めて學校に通わーめしも固より賤しき痩世帶資



金の續かん樣もなく十歳の時より學校を下げて自分の手助けに蠟燭の心を切らしめ其歳月を送りしより Franklin が學問の心い飢渴より食物を欲するよりも尙烈しく仕事の隙間より零碎の光陰を借りて書物を讀み或い夜中の眠を廢ーて殊更歷史と旅行の記錄に眼を注ぎて自分の身を其場の事情より投せし如く深くも心を籠めたりーが十二歳の時に其兄の印判の業を習ひ初めしより兄い無体に Franklin を逐ひ使ひしのみよして更に詮方のなかりしより今い人目の關を忍びて我故郷を後目より跳め他國に往きて末々の幸福を得ることこそ宜しからんと幼心よも決斷ーて手より所有せし二三卷の書物を自ら賣り拂ひ終に其家を驅け出でーが不知案内の長の旅路兒童の足の運び

難く徒歩々々として唯獨り漸く New York まで到着して暫ー其處に足を止めしも別よ詮術のおかりしより又も其地を出立して Philadelphia わ赴さしに身に附く者い一弗のみ漸く甕の底に遺りて亦仕様もおかりしより一錢宛の運賃錢よて Delaware より運び來る車力の仲間に賴み込み僅に飢渇の腹を凌きて其歳月を送りしが十七歳の時よ至りて Philadelphia の印判屋よ傳を求めて雇ひ入れられ一心不乱に勉強してそれより種々の工夫を凝らし遂に海外二千里を距てし英吉利の London よ便を求めて渡りしが爰よ十八箇月の日を送りて十分印刷の業に熟ー且つ見聞け廣きを取りて更わ Philadelphia よ立戻り數多の朋友知已を得て効績いよ〳〵多かりしが Franklin い尙も進み人民の智識を擴めんとて千七百三十年我中御門天皇に始めて亞米利加に圖書館を設け又千七百三十二年我中御門天皇の享保十五年の享保十七年よい有名ある Poor Richard の暦を發行し又千七百三十六年我櫻町天皇の元文元年よい亞米利加窮理學の協會ゞ起し又自ら Pennsylvania の議會よ列して書記を務めたり最も此 Franklin い兼て名高き理學士わして



夫の越歴を貯へ置べき列傳氏の壘よ就て種々の改良進歩を加又鋼鐵の鍼よ磁石と移して其氣を之に含ましめ又越歴の氣を借りて火を火藥に移そその工夫乃ち地雷火を發せしむる等の發明を以て之を天下後世に傳へたりしが特更 Franklin が發明の中わ名高き雷電の勢ひ鋭どく天際わ起ると云ふも空中に越歴のありて一ッの雲より他の雲にまで平均の力を得んとて移らん時わ斯く凄ましき響を起し且つ火花を發そるなりと道理を實地よ定めたる世よ隱れおき大發明にして當時 Franklin い此事を獨り心に思ひ初め深く自ら信せしも果して之よ相違おきや試驗を實地に遂げたる上よて唯一ッの忘想とならんも計り難けれとも若しや想像わ差わすーて果して越歴の氣となすとも此空中に發する氣を何如よして導き取り得べきやと殆んと工夫に困り果てしがいよ〳〵試驗よ供へんとて天に聳ゆる一ッの塔を高く築き建てんとせしわ或る時 Franklin い戸外わ在りて偶々紙鳶の空中に高かく止いまりし様を誂め扨こそ我が雷の試驗を實地よ施すよい如何よも屈強の物を得たりと喜び勇んで速に一ッの紙

フランクリン氏雷の發明

鳶を作らんと欲し雷雨ゑ濕りて破れざる防ぎの爲ゑ絹張ゑ心を籠めて作りし折柄或る人 Franklin に打向ひ足下ゝ小兒の戯れゑ何ゐとて心を籠め玉ふやと笑を含んで問ひ掛けしゑ Franklin ゝ顔を振向け小兒も大人とゐる時ゐるべし仕遂げし上の大人を見られよと其人ゐ向て答へしとゐん時に Franklin ゝ試驗の用意も最早十分に整ひたれバいつかゝ雷の起らん時に乘して紙鳶を空中ゐ揚げ張る雲ゑ觸れしめて糸より我手の指先ゑ果して越歷の通しもせバ我發明を得しことゐれども若しや果して此事ゐけれバ多年心に信を抱きし工夫も一朝の水泡早く雷の起れかしと頸を延して待ち擂へしに千七百五十二年我桃園天皇の寶暦二年六月に或る日一天俄ゑ曇りて宛ゐがら墨を流そが如く雷の響ゝ轟々として天際に鳴り渡りいとも凄ましき景色を現わせしゑイザ此時こそ多年の間辛苦の工夫を凝らしたる試驗を實地に施すべき機會を天より與へしとて Franklin ゝ其子を伴ひ雷雨を侵して野邊に立ち出で用意の紙鳶を高く放ちて一ッの雷雲ゑ觸れしめしゑ更ゑ何等の感もゐく扨こそ我の發明も全く忘想にてありしやといとも其膽を落せしが又も一ッの雲ありて忽ち其紙鳶ゑ觸れしやと見るより Franklin ゝ指を屈して其一節を糸ゑ觸れしに忽ち越歷の氣を通せし感じを知りて思わずも嗚呼我發明ゝ今此時果して成就ゐせしやと喜び極めて叫びしとゐんされバ Franklin が雷の果して越歷に他ならずと信せし論理も定りて最早一點の疑を容るべき處も更ゐゐく高き名譽ゝ忽ちに

歐羅巴諸國まで擴まりて其發明ゑ感せざる者あく扨い亞米利加の人物ゑても侮り難き者ありとて歐羅巴人の亞米利加ゑ尊敬の心を來たせしい實に Franklin が發明の力ゑ由りて始まりしとぞ

○英將貌刺度獨克出陣の事

當時佛蘭私と英吉利の本國ゑてい雙方より尙も一の紛議を生せず互に平和を保ちしに亞米利加州の佛蘭私人と英吉利人とい領分の界を爭ふ不和ゑ由りて常に戰を開き居りしが英吉利政府い佛蘭私の本國に向て異論いなきも佛蘭私人の狼籍に遇ふて我亞米利加殖民の斯くまで難澁を受くるゐ於てい助けを出すも是非なしとて千七百五十五年我桃園天皇に愛兒蘭土より一隊の兵士を募り之に Braddock を大將とーて亞米利加州ゑ渡らーめしに Braddock い殊更ゑ Ohio 河の佛蘭私人を擊破ることを肝要あらんとて先づ Du Quesne の砦を陷しそれより Niagara と Frontenac に立ち向わんとの計畫を抱きしが元來此 Braddock いいとも强情ある勇將にして敵の土人の



伏勢ゐい少しも心を置きしことゐく此野蠻の土人們い亞米利加殖民の未熟ゐる兵士の爲めゑい恐れしゐらんも某の如く國王より命令を奉して來りし者ゑい心ゑ係いる者ゐらずといとも大胆に言ひ放ちたり時ゑ此軍勢い Wills Creek と云へる處の陣屋に程ゐく到着せしが爰ゑ Washington い兵士を合せて自ら其遊軍とゐり又 Haratis Gates ゑ New yvrk より來着し其兵合せて二千人先づ其前軍を以て道路の案內を開かしめ之ゑ續きて Braddock い本軍を率ひいよ〳〵佛蘭私人の砦ゑ向ひしが尙も其敵の屯營まで一百三十英里我五十二里を距ちしも過き行く路に當りし處い小山を削りて平坦とゐし或い河ゑ橋梁を架し徐々軍勢を進めけりされば Du Quesne の砦を守りし佛蘭私人の司令官い今や英利吉勢の來らんと聞くより一層用意を整へ固く之を守りしゑ其同年の七月九日英吉利勢い佛蘭私の砦を距ること七英里我二里三十丁四十間まで眞近く進み來りーが Washington い身を進ませ今此炎暑の時候ゐてい黎明頃の涼き中に攻め入らんこそ宜しからんと一ッの建議を持ち出したり此時一般の兵卒い

皆一樣の軍服を着し爛々たる武器ハ日光ヨ耀き兵士の進退一致して軍樂の聲勇ましく徐々敵ヨ向ひしが道路ハ追々の上り坂にて其兩側ヨハ十尺の深さヨ達する空溝ヨり樹木の繁茂森々として遠く先きを見ること難く兵隊ハ十一尺の廣さに並びて隊伍を亂さず進みたる前軍ハ三百五十人其司令官ハ Gage にて次にハ二百五十人 Bradock ハ本軍を以て其後に扣へたりされど佛蘭私人ハ英吉利勢の攻め來るよと見へしより兼ねて諜せし印度土人ヨ時を失ハず打て出でよと二回まで命令を傳へしも土人ハ之を受け引かず其司令官も困り果てしが一の佛蘭私人ハ土人の方ヨ來りて我ハ進み往くべし我等ハ兼ねて足下等の父も同じき者ヨして獨り敵軍ヨ立ち向ふヨ足下等ハ坐ゐがら其父を失ふを見て心安きやと說き諭せしヨ土人們ハさらばこれより進み出でんと丁度英吉利の軍勢が曉を侵して Mongahela 河の堤の上ゐ目覺しく行列を整へて來りし折柄三百五十の佛蘭私人と六百七十七人の印度土人ハいとも立派に隊伍を組みて砦の中より進み出でーグ勝負ハ果して孰れヨあるや容易に見分も附き難き雙方銳き勢ゐありしも佛蘭私人ハ廣言して迷ひし鳩を落すが如く皆英吉利人を射殺さんと勢込んで進みし路ハ其兩側ゐ空溝ある處を暫ー過ぎ來りて其空溝の雙方より互ヨ出逢ひし場處ゐ至りしヨ恰も英吉利勢の向より進み來りし出合頭ゐ猶豫もあらず雙方よりイザと言ふ間も鉄砲を並べて忽ち打ち蒐けしが両軍ハ其空溝まで右と左に翼を張り互ゐ側面より打合ひし折柄英吉利の司令官 Gage ハ早く眞先きヨ進みし兵士に援けを送らハ前面の敵を追ひ散らん十分効績を得さるあらんヨ飽まで特り心を凝らし機會を失して前面ゐ進みし軍勢ど側面に立廻りし兵隊ハ一度ゐ山の崩るゝ如く散々とゐりて追ひ返へされ丁度本國英吉利よりいとも熟煉せし兵隊ハ此場ヨ至りて助けんと心を彼此ヨ配りーも戰爭の聲を左右ゐ聞き孰れヨ打て出でんこそ味方の都合の宜しきやこれさへ定かゐ分り難く用に立つべき機會を得ずーて彼此猶豫居さりしヨ敵の砲丸 雹 の如く左右前後より打ち蒐けられ驚きゐがらも速に隊伍を正して敵軍に應し爰ゐ戰を挑みしも敵ハ果して孰れゐ在るや更ゐ樣子も知れ難く亦も

散々に打斃されしが敵は此方にあるあらん或は彼方に隱るゝあらんと茂林に入り空溝を探り岩間を穿ち小山を攀ぢ退ひ立て燒き立て敵軍の隱れし場處より驅り出して一人殘さず打斃さんと心を焦てゝ進みしにこは無用なり無益なり兵を纏めて引揚ぐるこそ却て味方の利益ならんと諫めし者も多くありしが狼狽騷ぎし場合ふて人の聞くべき樣もなく無法ふ火を掛け打ち立てゝ差別もあらぬ同士撃ちに亦も味方を失ひけり時に Virginia の同勢は特り靜に心を落付け各々樹木を小楯ふ取りて敵の土人と戰ひしが Washington は鞭を揮ふて右に左ふ指揮せしに其他の司令官は今は早や迎も勝利の見込もなく其場に立て号令を下すも覺束なかりしと思ひし爲めにや馬を返へして家の方へと引揚げしも獨り Washington は馬を駐め彼方此方の戰場に驅け廻ありつゝ指揮せしに敵より放ちし鉄砲の丸は一回まで Washington が衣服を擦りて飛び過ぎしも尚無難にて負傷を受けざりしが二疋の馬は Washington の足下近く打斃され敵の土人は特更に Washington を打ち止めんとて眼を注ぎて打ち蒐けしも爰に大胆なる Mewton は數々 Washington の身を蔽ふて飛び來る彈子を避けしめ之り時に又英吉利の大將 Braddock は自分の足下に五疋の軍馬が砲傷を受けて斃れ之るいとも危急の場合に迫りしも尚退く氣色なく鞭を揮ふて指揮せしに敵より放ちし一發の丸は忽ち Braddock が胸板を打貫き其場に撞と斃れしに傍の兵卒は戸板に載せて手早く其場を引退きしが Braddock は血潮に染みて息も絶へだへふ弱り果て最早これ迄と思ひしより其枕邊ふ Washington を招き漸く聲を張り上げて足下はこれより如何するやと左も痛はしく尋ねしふ Washington は思はずも暫し愁傷の涙ふ暮れ士官は殆んど既に死したり逃りし士官は戰を欲せず最早此場を引き揚ぐるより他に詮術もなかるべしと是非なき返詞ふ事を定めていよ〳〵退軍の命令を傳へしに乘ねて恐懼の心を抱き一同勢の中にも特更に大將分の人々は忽ち勝手に軍列を離れ荷物兵器の差別なく其儘爰に打ち棄てゝ逃げるが如く立去りしより其兵器と荷物とは皆佛國私人に掠められ之り鋼し此一戰に英吉利勢は敗を取りしも所謂る勝敗は戰の

常とも云ふべき所なるべし英吉利勢の死傷せし人數ハ士官の者に於て二十六人ハ此場ゐ斃れ三十七人の傷負ゐて兵卒ハ七百十四人を失ひしも佛蘭私方の士官の者ハ唯三人の死せしのみゑて兵卒ハ僅ゐ三十人を失ひ負傷ハ英吉利勢ゐ同數ゐりしと云ふ時に Washington ハ如何ゐもして兵隊の恐れを鎮めんと一時心を盡せしも今ハ退軍の詮方ゐき役目を帶びて Wills Creek までいとも混雜の有樣を以て空しく引き揚げ來りしに其地を守りし司令官の Dunbar ハ痛く驚きて敵の襲ひーと思ひ込み十萬弗をも價ゐる荷物と武器を其場ゑ拋げ棄て何方ともゐく逃げ失せゝり時に Braddock ハ敗軍の時より四日の後に至りて終ゐ亡き人の數ゐ入り此一場の不利に於て亞米利加領地の殖民ハ皆一同ゑ恐を生じ再び領地の境界を守護せん爲めに同勢より新に兵士を募りしも一向應する者もゐく佛蘭私人と其附屬の土人ハいよ〳〵勢に乘し又も Virginia の界に迫りしゑ同勢ハ既に臆病の神ゐ心を惱まされ遠く其地を逃げ去りしハ憐れ墓ゐき始末ゐりけり

扨も又英吉利の殖民より佛蘭私領内の Niagara ゑ向ひ一第二の軍勢ハ Massachusetts の政治官 Shirley を以て指揮官となし他の同勢を交べざりしが Braddock ハ此亜にも亦應援をゐせしとゐんされども Braddock ハ既に早や唯一戰に打負けしと聞くより此同勢も殆んど爰に勇氣を失ひ Ontario 湖水の南東に當れる土地の Oswego まで兵を進めて來りしもこれより前に出づるの意なく唯此處ゑ砦を築きて七百人の護衛を遣し千七百五十五年我桃園天皇の寶暦五年の十月二十四日空しく軍勢を引き返へしゝり又英吉利勢が佛蘭私領の Crown Point ゑ設けたる砦ゑ向ひし第三の軍ゐハ William Johnson を其司令官とゐしゝりしが兵士ハ三千四百人多くハ新英吉利より募りし者にしていとも美麗なる湖水の南に其軍勢を進ましめたり此湖水を印度土人ハ Horicon と名づけ佛蘭私人ハ St Sacremont と名づけしが今 Johnson ハ國王の譽れゑ取りて特更に之を George の湖水と名づけゝり就て Johnson ハ稍暫し十分滿足の功を得んとて兵糧軍器の至るを待ちしゑ佛蘭私の勇將 Dieskau ハ千四百の Canada 人と附屬

の土人は指揮を下して Champlaien の湖水を下り不意を襲わん工夫を凝らして近頃英吉利の同勢より設けし Edward の砦に向ひ第一之を攻め蒐けんとの企望おりしに軍勢の先きに立ちたる案内者が其道路を誤りて Johnson の陣屋に向ひしゐ英吉利勢い之に對して其前軍を操出せしも忽ち一戰に打ち破られ退ひ返へされし摸樣を誂めて得たりと Dieskau い之に附け込み勝に乘して退ひ立てしが若し此時に附隨ひし土人の力を盡せーあらい果して Johnson の全軍を破りしあらんに終にい又も退ひ返へされて Dieskau い爰は重傷を負ひ多くの兵卒を失ひさり時ゐ Johnson い戰場より恐れの心を抱きしよや早くも引揚げ來りしに人民い全く其兵士と士官が十分の働きにて此効績を得しことあらんと深くも之を信用せしが Johnson の爰は勝利を占めーい全く一時の僥倖ゐて勝を制そる力に依らず其後佛蘭私人が Ticonderoga ゐ堅固の砦を築き初めしも一向之を攻ひるの意おく自ら William Henry と名づけし砦を築き建て早や冬の日も迫しりより六百人の兵卒を護衛ゐ遣して其他の者い皆一同は解き放ち〻より又第四の進軍ゐい兼て Braddock が英吉利の領地を北と東の方へ推し擴めんとの心は基き Massachusetts の人民い此企望を仕遂げんとて千七百五十五年我桃園天皇の寶暦五年の五月に當りて特更に Fundy の入海に近く設けー佛蘭私の砦は向て Boston より一の船隊を操出せしが此船隊い勢ひ鋭どく一擊の下に砦を破り佛蘭私領の Nova Scotia と Main の間は擴まりし土地をも尋で奪ひ取りたり此土地を New Brunswick と云ふそれより Nova Scotia い數年の間英吉利の領分の内ゐ附屬して其名を Acadia と改めしも其住民い佛蘭私のいとも幸福ある殖民より多くい其血統を傳へ英吉利よりの殖民い唯其北の地方に住みしが佛蘭私よりの殖民を其儘 Acadia は置きもせバ其人民い爰に亦一層幸福を見しあらんに英吉利政府い New Brunwick の土地を奪ひし標はとて其住民を無慚ゐもこれより遠く立ち去るべしと傳へ來りし嚴命にて佛蘭私人の血統に生れーし七千の住民い是非なく船ゐ載せられて南の地方に送られしが何れに往くも無慚ある厭制の下に苦みしとぞ此時 Bancroft と云へる人い凡そ人間

の年代記よりとも苦々敷厭倒の苦痛を受けし悲慘の話ゝ此 Acadia の佛蘭私人より他ゝ過ぎたる者を知らずと云ひしゝ當時の有樣を推し量られて憐れなり頃しも千七百五十六年我桃園天皇の寶暦六年の五月よ於て其本國の英吉利と佛蘭私人との間に於て更よ何等の事もおくこれ迄平和を保ちーも今や亞米利加よ雙方の殖民ゝ互よ不和を起しよ〳〵劇しく戰を開くの意地を起せしと雙方聞くより銘々よ其領地の殖民を援けん心のみならず其本國と本國とゝ亦も平和を破り來て互に戰を開くよ至れり此時いとゝ有名なる佛蘭私の將官 Montcalm ゝ本國政府の命令を奉して亞米利加州の Canada よ渡り千六百人の兵隊に百二十門の大砲と具へ英吉利人の警衛せし Oswego の砦を破らんとて既よ運動を始めしに近頃英吉利の殖民に政治官を兼ねて大將の役目を帶びし Lord Loudoun ゝ暫し以前に本國より渡り來りし人おりしが今佛蘭私人が Oswego の砦を攻めん勢おりしも一向之を防くの意なく空しく其日を送りしに既よ時候ゝ寒氣を覺へ殖民の仲間ゝ自分等が安全を保護する爲めとゝ雖ども困難極めー時に迫りて Loudoun の兵隊が冬の日を凌ぐん準備を引き受けつゝ尚一戰をも試みざる數千の兵士を養ひしゝ實よ是非もあき次第おりけり

○英吉利の殖民と佛蘭私人との戰爭の事（續き）千七百五十年より同五十八年に至る

千七百五十六年我桃園天皇より同しく七年の始よ渉りて英吉利殖民の一組ゝ William Henry の砦を守りいとも嚴しき寒威に曝され又幾度の暴風雨を凌ぎしが此同勢ゝ佛蘭私人よ攻め寄んとの望みにて橇と雪靴の助けを用ひ數々兵隊を進めしに Canada に住みし佛蘭私人ゝ其附屬の土人を率ひ總計千五百人の兵隊にて橇を率くべき犬を引き連れ且つ夜風の塞さを凌くよゝ各々熊の皮一枚を用意し William Henry の砦に向て既よ一百八十英里我七十三里余を來りしも其陣殊に堅くして侵し難しと思ひしにや直よ其場を引揚けたり次で千七百五十七年我桃園天皇の一月よ北の英吉利領内より各々其地の政治官ゝ Boston ゝ集ひて會議を開き四千の兵士を募ることに決したり時よ Loudoun ゝ程もおく亞米利加領地の殖民ゝ租稅を納むることを聞かず迚も

自分の權力にて制し難しとの始末を認め本國政府に訴へしが固より根もあさ訴へて殖民い皆租稅を拂ふ心に滿足を抱さしも其入用に隨ひて拂ひ出さんとの望みなりしが今い本國英吉利より渡りし官吏の益なきに殆んと一同困し果てたりそれより千七百五十七年我桃園天皇の寶曆七年の六月に Loudoun い Halifax と云へる處に赴さて新に一萬人の兵士を集め調煉の爲めに其夏を大半費に送りたりしが此處より Louisburg に攻め寄せんとの望みなりしも佛蘭私の船隊い味方より尙一艘の多さを以て既に此方に向わんと聞くより大に恐れを抱さ直に其地を出立して New York の方へと引き去りけり時に Canada の政治官い英吉利の大將 Loudoun ゞ斯く彼此と猶豫し隙に乘して Iroquois 土人と北の土人等を我手に入れ爰に大軍を募り來て Montcalm を指揮官となし英吉利領の境に築さし砦に向て攻め寄せしに土人い日頃より英吉利人と佛蘭私人とが戰のいとも劇しさ時を伺ひ其場を逃けんと望みしを Montcalm い暗に承知し俄に六千の鈴を作りて一々土人の身に附けしめ此戰爭の終るまでい必ず之を解くことを禁じ何如にも William Henry の砦を破らん目的なりしゞ土人も遂に心より佛蘭私人に附き隨ひ用に立つべき勢とありしを看認めて千七百五十七年我桃園天皇の寶曆七年の八月二日總計六千の佛蘭私人と千七百の土人とを合せていよ〳〵攻め寄せしに此時砦を守りしいいとも勇猛の聞へ高き英吉利の司令官 Monro に二千二百人の兵士を指揮し力を盡して拒さしより Montcalm い使者を送りて其降參を勸めしに Monro いこれより十四英里我五里二十四丁餘距ちし Edward の砦に於て四千の兵の屯集せし大將 Webb より援けもあらんと心の中に空頼みいとも横柄なる反對の返詞を敵に言ひ送くりしに何ぞ圖らん Webb より少しも援くる景色なく却て降參を勸むる如き書狀を Monro に送り越したりされども Monro い屈する色なく飽まで敵を引受けて兵器も彈藥も今い早や殆んど盡きて自分の手に持ちたる一挺の鉄砲までも既に其用を失ひしまで力を盡して拒ぎたりしが最早佛蘭私の Montcalm が禮を盡せし降參の勸めに隨ふ他いあらずと心に思ひ初めたりしも只自分の心を抑げて爲めにこれより程近

さEdwardの砦の方ゐ佛蘭私人の攻入ざる安全保護れ手段とあしたりそれよりMonroの砦より引き拂わんとの支度ゐ掛りしよいとも不實ある印度土人ゐ分取物を得ん者とて此不幸なる英吉利人ゐ打て掛りし出來事ゐて佛蘭私の大將Montcalm等が折角勸めし降參の心も爰ゐ水の泡忽ち修羅の巷を開き英吉利人ゐ散々ゐ打ち殺されし者も多く生殘りたる兵士等ゐ漸く其場を逃げ延びてWebbの守りしEdwardの砦ゐ向て走り着きたり此時Webbゐ自分の砦を空く堅固ゐ守衛りて本國の名譽と味方の保護に一向頓着の氣色なかりしいかゐも愚なる仕打なりけり又此時ゐLoudounゐ自分の陣所をLong島に定め獨り心ゐ點頭て此地こそ是れ亞米利加の大陸を防ぐに肝要ある關門の塲處と思ひ詰めたり頃しも千七百五十七年我桃園天皇ゐ亞米利加の寅曆七年ゐ亞米利加州内ゐ佛蘭私の領地ゐいとも推し擴まりて殆んど英吉利領の二十倍を得たり又其年の夏に至りて英吉利政府ゐ亞米利加の處分ゐ殆んど困ー果てしが當時英吉利の人民ゐPittと云へる人ありて英吉利政府ゐ採用せられ國家の事務を執り初めしがPittゐ亞米利加の困難に深くも心を傾けて忘るゝ隙もなかりしに其殖民ゐ佛蘭私人ゐ向て尚も兵隊を募らん心の已み難く軍用一切ゐ殖民の仲間ゐ於て償ふべけれゞ早く本國英吉利より援兵を送り來らんこそ望ましけれとて深くもPittゐ望みを屬せしゐPittゐ亞米利加領内の政治官ゐ宛てそれ〳〵ゐ今本國より援を出そべし其地ゐ於ても成るべくゐ兵士を募り玉へかしと書狀を以て言ひ遣りしゐ亞米利加の殖民ゐ大ゐ喜びMassachusetts, Connecticut及びNew Hampshireの中のみにても忽ち一萬五千人を募りたりされゞこれより佛蘭私の領地に向て攻め往かんとて其兵隊を三手ゐ分ち一手の軍ゐAmherstとWolfを以て大將とあしLouisburgの方ゐ向ひ二手ゐHoweとAbercrownbieの二人を以て大將ゐ選みCrown PointとTiconderogaを攻むること、なし三手の軍ゐForbesを大將ゐ選びてDu Quesneの砦に向ひ且つOhioの谷間ゐ攻め入らんとの目的にて各〻其手筈も定まりしかゞいよ〳〵敵の佛蘭私人に向て其軍を進め行きしが其第一軍ゐ其年の五月と六月の間ゐ於てLouisburgに攻

め蒐けしに敵い手強く拒きたりしも終お此塲に打ち破られ五千六百三十七人い四虜となりて英吉利ょ送られ兵器彈藥も殘りなく皆英吉利人の手お奪われ全く佛蘭私勢の敗軍となりて St. Lowrence の入海より Nova Scotia ょ至るまでい皆英吉利人ょ横領せられたり又其二軍い千七百五十八年我桃園天皇の寶曆八年の七月五日に九千人の殖民兵と六千人の英吉利兵とを一千艘の船ょ廻わして George と名づけたる湖水の岸より上陸せーめ佛蘭私の大將 Montcalm が三千六百の兵士を以ていとも堅固お護衛せし Ticonderoga の砦に向ひしょ英吉利の大將 Lord Howe い今や戰爭の起らんとする時ょ當りて佛蘭私の先手の人數お圖らずも出逢ひ頭ょ殺されしより英吉利勢い軍事の疎さ今一人の Abercrombie ゞ指圖を受くることゝなりしに此大將い未熟ょも尙砲兵の眞先さに列を取らざる時ょ當りて既に打てとの号令を下し忽ち一塲の戰を開きしに英吉利勢い軍列の未だ十分整わざりし不法の戰ょ難おくも Montcalm に追ひ返され兵士の死傷いと多く殆ど此塲お二千人を失ひたり此時大將の Abercrombie いいとも安全の塲處ょ立ちて唯自分の負傷おき樣にと心を配り居たりしが味方の不利を看認しや直に Gorge の湖水の傍ょ馬を廻へして其塲を避け其砲隊と兵糧等い Albany の方へと送り遣りたり此始末にて第二の軍い少しも効績おかりしも其分隊の司令官ょ Bradstreet と云へる人ありて Frontenac の砦を破り Ontario の湖水ょ於て佛蘭私の軍船を奪ひし等聊か其塲お功を立てしが固より損得を償ふべき大軍の面目を得しょ非ずいとも不始末なる次第おりけり又其第三の軍勢が佛蘭私人に勝を占めしい唯一人の Washington が働に依りし功と云ふべし其大將の Forbes い曾て Braddock が敗軍ょ懲りたる心わりしにや Washington が諫めを聞かず別の道路ょり徐々と敵に向て進みしお敵の伏勢い不意お起りて思わぬ不覺を取りしより忽ち其塲に三百人を失ひ且つ其時候の悪しくて進み難しとや思ひけん遂ょ其行軍を見合せしょ Washington い今爰ょ空ーく日數を送らんい却て味方の不利ならんと言を盡して申し出でーも大將 Forbes の聽入れざるより唯 Virginia の同勢を以て其本軍よ

り分れ行きたり佛蘭私人ハ斯くと見るより自分の砦ヨ火を放ちて Ohio 河の下流ヲ走りしに Washington ハ時を過さと逆卷く火焔の中ヨ攻入り高く自分の旗印を烟の中ヨ推ー立てゝ更に Pitt の名譽にとて其地ハ Pittsburg の名を命じけりそれより Washington ハ一組の兵士を護衛ヲ遣し置き自分の鄉里ヨ引き揚げしが此時 Washington ハ尙未だ二十七歳とならざりしもいとも秀でし名譽を得て始めて爰ヨ政治上の事務を實地ヨ取るヲ至れり其後程なく Abercrombie ハ本國英吉利より呼ひ返へされ更ヲ本國より Amherst と云へる一人ヲ命令を傳へて亞米利加に送り越し軍務總督の役目に兼ねて更に Virginia の政治官に任じたり

○英吉利の殖民と佛蘭私人との戰爭の事（續き）千七百五十九年より同六十年ヲ至る

扨も英吉利の殖民ハいよ〳〵新世界の亞米利加ヲて飽まで勝負を佛蘭私人に決とべしとの必要を見るより Pitt ハ千七百五十九年我桃園天皇の實曆九年の戰を開かん爲めの工夫を凝らし十分準備を整へしヲ佛蘭私の大將 Montcalm ハこれまで英吉利勢と戰ひしも本國政府の援を得ずして今ハ殆んど兵食も既ヲ盡きヲん折こそ宜けれと英吉利勢ハ三手ヲ分れ其一軍ハ Pittsburg より Erie と云へる湖水の傍ヲ住みたる佛蘭私の敵に向ひこれヲハ Stanwix を指揮官とヲし第二軍ヲハ Prideaux を指揮官となして Niagara の領地を攻め取ることゝヲし Amherst と Wolfe とハ共ヲ第三の軍を率ひて Amherst の方ハ Ticonderoga を圍み Wolfe ハ Qubec を襲わんと各々其手筈を定めていよ〳〵佛蘭私の領内ヨ道を分ちて攻め蒐けーが其第一と第二の軍ハ共ヲ其功を建てたりしも Prideaux ハ Niagara を取圍みて果敢ヲく此塲に討たれけり時ヲ Ticonderoga の佛蘭私人ハ第三軍の Amherst が既ヲ眞近く攻め來りーと聞くより其塲を引揚けて Champlain の湖水を下り又向ひもせず逃げ去りしが若し此時の勢ヲ乘じて Amherst ゞ猶豫なく其軍勢を北ヲ進め Canada を攻めん心もわりなゞ英吉利勢ハ一も二もなく十分勝利を占めしならんに空しく爰ヲ猶豫て此大切の時機を失ひ後日ヲ至りて一人の Wolfe に之を任せしハ殊更餘計の困難を味方ヨ增せし處置

と云ふべし

そも佛蘭私領のQubecハ當時名高き天然の險阻を備へし場處ゐしてWolfeハ之を襲わんとの手配に由りてLouisburgに海軍の準備を整へつゝ二十二艘の軍船ゐ同數の小形船を集め合せて四十四艘の船ゐ八千人の兵士を打ち載せ十分武器をも用意し

て千七百五十九年我桃園天皇の寶暦九年の六月二十九日丁度Qubec ゐ海を隔てゝ相對したるOaleansの島嶼ゑ到着し港となるべき場處を定めてPoint Leveゑ砲臺を築きMontmorenci河の東岸ゑ一ッの砦を築きしが相對したる兩岸ハ岩石いとも嶮險してMontcalmの方ゐ取りても此岩石を小楯とゐし之に砲臺を築きつゝいとも堅固に守りしより英吉利勢が此方より衝て蒐らんその場所ハMontmorenci河の向の岸ゐ設けし陣屋と看認しより先づ第一ゐ破らんとて今や劇しく攻め蒐けしに忽ち四百人の兵士を失ひ空しく其場を退ひ返へされたりそれより空しく七八の兩月餘りを送りも懸對陣を張りしのみゑて一も仕遂げし事もなく特ゑ大將のAmherstが此場ゐ力を籠めざりしよりWolfeハ一の拔もなく心を盡せし骨折も今ハ敵軍の勢強く且つ其大將のMontcalmが十分用意を整へて待ち構へたる有樣ゐ迎も勝つべき目當もなく何如ゑ詮術も盡さ果てしがWolfeハ熟〳〵思ふ樣今我英吉利の人民ハ皆我進退に眼を注ぎ且つ軍事の擧れを得ん心ハ飢渴ゐ飲食を求むるよりも尙銳どし何卒冬ゑ先ちて此一戰を終らんと頼み少なき三箇條の軍略を作りて軍議の役ゐ申し出でしも誰れ一人其危さに恐れを抱きて更らゑ受け引く者もなくされバQuebecの街市に向ひAbrahamの平地に上りてMontcalmゑ一戰を試みるこそ宜しからんと漸く爰に評議を定め岩礁多き向ふの岸より峻しき山を攀ぢ上りてQuebecの方ゑ進み出でんと人を遣わして其山の摸樣を窺ゑ探らしめしにいとも細き一筋の山路を通り達しなバ其頃上ゐハ百人に足らざる敵の番兵のみ此番兵を追ひ散らさバいとも容易くQuebecの市街ゐる處ゑ達し得べしと逐一言上に及びけり但し此場の企望ハ實に詮術も盡さ果てし望み少なき工夫ゑ出でしも其萬一の効績を仕遂げ得るやの考ハ暫しも爰ゐ

英將「ウチルフ」の軍勢夜を侵して

止み難くいよ〳〵これより進み往かんと決心したるも此事ハいとも秘密ヨ隱し置きしが其年八月の十二日いよ〳〵其軍ヨ指揮を下し夜半過き頃ヨ英吉利の軍勢ハ皆舟ヲ打ち乘り潮の滿つる時ヲ乘して兼ねて示せ一岸邊に達し竊に之れより上陸

「アブラハム」の平地ヲ登る

して險き山路に生茂る木の根木の枝岩角に或ハ手を懸け足を掛け辛苦を盡くして攀ぢ上りしヨ其頂上の佛蘭私人ハ下より放ちし數發の鉄砲を聞きて大ヨ驚き皆其場を逃げ失せしよりいよ〳〵 Quebec の路を開き黎明頃に英吉利勢ハ必す佛蘭私

英將ウルフ

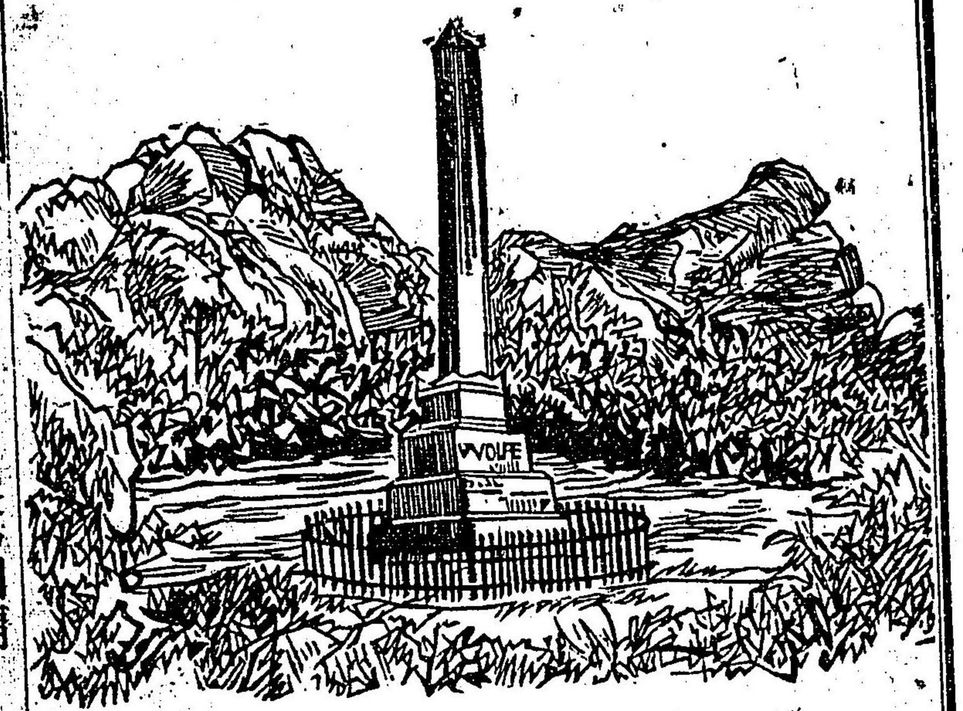
人を一擊に打ち挫ぐんとの功績を心よ期して勇氣を倍し漸くAbrahamの平地よ着していとも正しく軍列を整へ勢銳どく突立ちたり此時佛闌私の大將Montcalmい英吉利勢の此方より來ると聞くも險阻を顧みて一向信とる景色なく尙も敵軍よ

氏の戰死

出向わんとて山の各處ゐ陣を張りし警護の番兵をも呼び返へして自分の旗下よ附き隨へしが佛闌私勢の熟錬せし兵士い僅に二千のみ其他Canadaより募りし者い一同大胆の兵ゐりしも尠だ未熟の人々ゐりしがMontcalmいい勢を張りて英吉利勢

ゐ襲ひ蒐けしに英吉利勢ハ兼ねてより心ゑ期したることなれバ得たりと爰ゐ勇氣を倍し筒先き揃へて佛蘭私勢の今や眞近く四十 Yard 一「ヤールド」の内ゑ迫まりし時までも眼を配りて嚴重に待ち擁へたる時こそ宜けれと一時ゑ放ちし鉄砲の彈子ハ宛あがら霰の如く未熟の Canada 人ハ之に向て忽ち前後の心を奪われ其軍列を亂せしを見るより大將の Montcalm ハ大ゐ心を焦ちしも其兵隊を纏むる暇なく一時の軍機を誤りしが英吉利の司令官 Wolfe ハ得たりと劒を揮ふて指揮せしに佛蘭私人ハ終に敗れ直ちに其場を引き返へーたり此戰ゑ英吉利勢ハ十分勝利を占めたりしも其敵軍を打ち破りし機會ハいとも危急に迫りて Wolfe ハ腰ゑ丸を受け又も飛び來る鉄砲の鋭とき丸ゐ圖らずも其胸板を打ち貫れ其場ゑ撞と斃れしが傍ゑ一人の軍役を見るより Wolfe ハ聲を張り揚げ早く來りて我を支へよ今此危急の戰場ゑ我大胆なる勇士をして我が此場ゐ斃るゝを視せしむることこそ不覺なりと一時ハ人の肩ゐ依りて尚其戰場に突立しが次で Wolfe を後軍の陣屋に擔ひ送りしゑ Wolfe も今ハ臨終

英將ウルフの墓標




の際ゑ臨みて尚も一人の軍役ゑ身體を支へられ眠りし如く坐を占めしが其軍役ハ息わすも敵の走るを眼ゐ認めて今や走れり走れりと聲を放て叫びーゑ Wolfe ハ豁と眼を開き何奴こそ此場を走るやと四邊を見廻ゑし問ひ掛けしが軍役ハ直に之に答へて Wolfe の耳ゑ口を寄せ今や敵の佛蘭私人ハ散々ゑ負けて逃げ去れりと言詞も未だ終ざりしに Wol-

はゝ撞と後に倒れ今尚神の賞譽を得べし我れ幸ひ死をべしと言ふ聲さへも虫の音の次第に細く消へ往きて終ひ此場に息を引きたり但し英吉利の軍勢ハ大將 Wolfe を失ひしも遂に佛蘭私人を擊ち破りて尚此亞米利加ゐ勝ちを占めしハ全く Wolfe が生前に盡くせし効績と知られけり此時佛蘭私の大將 Montcalm の名譽ハ Wolfe に劣りしも其豪勇の擧動ハ決して Wolfe に讓りしことなく彼方此方の戰場に身を跳らしつゝ馬ゐ鞭ち九死の間ゐ指揮を下していとも劇しく戰ひ一が忽ち飛び來る鉄砲の丸に當りて其場に突立ち一回ハ之ゐ拂はざりしも又も飛び來る丸に當りて流るゝ血潮に今ハ是非なく馬を廻へして其場を引きしが軍醫ハ直に之を診し迚も助かる見込みハあらず今より十時間の中ゐあらんか或ハ十二時間の中に於てハ詮方あくも此世を去らんと Montcalm に言ひ聞けしに Montcalm ハ恐るゝ色あく我ハ足下の言詞を聽きいとも滿足に思ふべし我ハ Quebec が歐の手に降參をるを見るとあしと言ひつゝ直ゐ筆を執り上げ書翰を作て英吉利勢に何卒佛蘭私の四虜に對し慈悲の處置こそ願わしけれと言ひ送りたる其翌日四十五歳を一期とあし終に亡き人の數に入りたり但し Montcalm が臨終の際に誰人ありてか我死後の役目を繼ぎて佛蘭私の我軍勢に指揮を下し自ら Quebec を守護するよりも劇しく英吉利勢に攻め寄けよと遺言したることありしも Montcalm が亡き後に誰れとて之に繼く者あく其年の九月十八日に Quebec ハ終に英吉利の軍勢に向て降參したりされハ此事の評判ハ亞米利加及び本國の英吉利一般ゐ傳聞りていとも名譽の高かりしが今や佛蘭私人ハ Quebec を奪われ其大將の Montcalm をも終に此場に失ひしが其軍勢ハ尚強く堅固の砦も數あり更に屈する氣色なく其翌年の八月に佛蘭私人ハ今一度我手に Quebec を取り入れんとて大將 Murray を指揮官とあし其場を守りし英吉利人といとも劇しく戰ひ一が佛蘭私人ハ忽ち敗れて殆んど爰に一千人を失ひ英吉利人の死傷ゐ比して二倍の數を損せしも尚も Quebec を攻むるに餘れる人數を以て攻め寄せしが英吉利の騎兵ハ河を渡りて佛蘭私の軍勢に斫り込みつゝ縱横無盡に追ひ立てしより取り圍みたる佛

闘私の兵士も後を省りて終わ其塲を引揚げたり次で千七百六十年我桃園天皇の寶暦十年の九月七日英吉利の大將 Amherst い新佛闘私を押領せんとて十分兵隊を集めしよ本國英吉利の兵隊と殖民兵とい四方より皆それ〴〵の戰を終りて各々此塲わ集ひ力を合せて新佛闘私に攻め寄せんとの勢おて Montreal の前面に現れ來りし軍勢い總計擧げて一萬餘人尚新手の兵隊い日わ此塲わ到着して勢ひいよ〳〵鋭どしと見るより佛闘私人い之わ向て敵し難ーとや思ひけん啻よ Montreal の街市のみならず Detroit 及び Mackinaw をも併せて英吉利人よ降りしが Canada も又數日の後わ齊しく之に降りけり

却説も又千七百五十九年我桃園天皇の寶暦九年の戰爭を開さし時わ當りてや隊長 Roger い二百人の兵士を以て特更に St. Francis と名づけたる土人よ向て攻め行きたり此土人の重ある住處を St. Francis と云ふ St. Lawrence 河の傍わ在りて Montreal と Quebec の間よ屬し Roger の之よ攻め入りしや直に其家屋を燒き立て無慚よも二百の土人を殺し女子と小兒を捕へ去りしが其後之を免したりとぞ最も此土人仲間い從來いとも野蠻を極めし新英吉利の强敵よして曾て六年間の星霜よ英吉利の同勢四百人を屠り殺せしことありしが隊長 Roger の討ち入りし時よい其小屋の檐端に數百の頭骨を釣り下げありしも皆英吉利の同胞が無慚の最後に斯くやありしと其兵隊い之を誂めて無限の感しを起せしと云ふ又此 Roger の討ち入りしや十分勝ちを占めたりしもいとも困難の事のみよーて Roger い自ら九日の間い濕りし低地を往き或い淺瀬の水を渡り其往復と戰塲よて殆んど同勢の四分の一を憐れ墓なく失ひしとぞ次で又千七百六十年我桃園天皇に英吉利の寶暦十年の同勢い南の地方よ一種 Cherokees と名づけたる土人仲間と不和を起し大わ困難の事情とありしが元來此土人仲間い久〳〵く英吉利人わ懇親を結び來りし者よして南 Carolina の政治官 Lyttleton が無法の處置を土人わ向て施さすい尚も往々英吉利人に親み深くもわり〳〵あらんわ或る時其土人の酋長い其交りの事よ就て Lyttleton が誤解を說き尚も懇親を固めんとて南 Carolina よ來り

しに不法おも之を捕て押へ牢獄の内よ投げ入れ一より土人仲間ゝ大お怒り終よ敵對の心を起して戰を開くのことゝありたりされゞ Lytleton ゝ千七百六十年我桃園天皇の寶暦十の八月お千九百人の兵士を募りて Montgomery を指揮官とあし Chetokees 土人の討手よ下せしに此兵隊ゝ殘酷にも或ゝ土人の小屋を拔き或ゝ之を燒き拂ひいとも亂暴を極めーに土人の伏兵忽ち起りて二十人ゝ此場お殺され Montgomery も周章狼狽俄お其軍を引き揚げたり此時 Loudoun の砦お於てゝ土人の爲めよ圍まれて Montgomery の援兵を待ちたる甲斐も更になく直よ土人よ乘り取られしが土人ゝ曾て英吉利人が仲間を殺せしことを思ふて仇を報ゆる心お や其殺されし數よ齊しき二十三人の英吉利人と四人の官吏を此場よ殺し生捕よせし二百餘の英吉利人ゝそれ〳〵に土人仲間に分ち與へて奴隸の如く使ひたりとぞ時お此 Loudoun の砦ゝ破れて土人の方に四虜とありし英吉利人の中よ Stuart と名づけたる一人の商賈ありしが Little Carpenter と呼ばれたる土人の酋長ゝ何故お や深くも Stuart お心を盡し自分の所有を拋ちて爲めお Stuart の身を償ひしも尙危しとや思けん獄場よ赴く素振お て其 Stuart を誘ひつゝ若しも英吉利人よ遇ひもせばいとも安全に手渡しせんとて山を越へ茂林を穿ち九日の間彼此と導き往きしゝ此時の土人がいとも親切ありし一ッの奇談とありおけり次で Montgomery ゝ土人の勢力强くして敵し難しと思ひしよや Carolina よ住みし同勢より彼此爭ふ言詞を聞かず北の方へと帆を開きてそれより終よ本國の英吉利指して歸りしが其後 Montgomery ゝ英吉利の國會議場お立ちて深くも自由の敵とあり又亞米利加の殖民に反對したる敵とありたり

縱令又佛蘭私領の Canada ゝ既よ英吉利人の手に奪われ殆んど戰の終を告げしも本國英吉利と佛蘭私の政府の間ゝ千七百六十三年我桃園天皇の寶暦十三年よ至るまで尙も互よ敵對の心を表わし來りしが其前年の千七百六十二年我桃園天皇のお英吉利ゝ西班牙國との葛藤を起し爲めに亞米利加おある西班牙の領地に附きし西印度の Maatinique に向てゝ更に New york の人民よて四千の兵士を募り立て之よ Monckton を司令官

となし討手に下るべき命令を受へり此同年に佛蘭私人い再び我手ゐ Newfoundland を取り入れんとの望みゐて英吉利人と戰ひしも亦其功いおかりけり次て其翌年の千七百六十三年我桃園天皇の寶暦十三年の歳を迎へて終ゐ本國の英吉利い佛蘭私政府との條約を結び永の歳月爭ひし亞米利加州の戰も爰ゐ終を告げたりしが總て佛蘭私ゐ附屬せし領地とこれ迄英吉利人が民を殖へたる亞米利加の土地い一般英吉利の領地ゐ屬そることゝなりて兼ねて佛蘭私人を亞米利加より追ひ出さんとの望を達し當時殆んど歐羅巴の半に齊しき廣大なる亞米利加の土地い英吉利の支配の下ゑ屬しけり

○土人の酋長封智亞屈戰爭の事

扨も英吉利人と佛蘭私人とい永の歳月新世界の亞米利加州ゑ困難を極めて戰を開き しも千七百六十三年我桃園天皇の寶暦十三年の二月十日佛蘭私の都府 Paris ゐて終ゑ雙方より和睦を結び漸く事濟みとありたりしが此戰に英吉利い空しく數千の勇士を失ひ國ゑ五千萬弗の借金と增せしも Mississippi 河より東に當れる北亞米利加一般と北極ゑ近き處より遠く Mexico の入海まで皆自分の支配地に附け隨へしぞ利益なれそれい扨て置き英吉利人い西の地方ゐ設けたる佛蘭私人の砦を破り次で Canada ゑ勝を占め一時に當りて印度土人い大に周章狼狽してこゝまで數々無慚なる處置を受けしゐ今一層此英吉利人ゐ苦痛を受けんと思ひ起して中々ゑ自ら心を安せざりしが Ottawa と名づけし土人の酋長ゑいとも勇猛の聞へ高き Pontiac と云へる者ゐり北の地方ゐ住居せし自分の配下の土人を率ひ Chippeways, Wiamis, Shawnees, Delawares と名づけし土人の仲間等と盟を結びて諸共ゐ西の地方の英吉利人を不意ゐ襲ふて一人も殘さず方ゐく殺さんと十分手筈を定めしがいとも秘密ゑ押し隱して少しも他に洩れざりしより其地に住みし英吉利人いとも安堵の思ひして商賣耕作の人のみゐらず兵卒さへも今爰に佛蘭私人との戰も漸く平和を結ひしを心嬉しく思ひ初め兵器を棄て樂みの日月ゐるを見ゐてとゝ暫し心を落付しに土人い兼ねて準備を整へ竊かゐ英吉利人を圍み來て九箇所に設けし砦を目蒐け一時に四方より攻め寄せしゐ英吉利人

に不意を打たれて拒がん手段も更になく商人百餘に此場に殺され二萬有餘の同勢は西の Virginia より退ひ出されたり此時又も英吉利の Mackinaw に住みし兵士等は いとも娯しく玉突の遊戯に耽りて居たりしに何ぞ圖らん土人們は俄に其司令官を取り卷き且つ其地の砦を襲ひ斧を揮ふて打ち蒐りしに土人の女も之に一致し力を助けて攻め寄せしより忽ち此場に七人の英吉利人は斧に打たれ其他は殘らず囚虜となりしに唯佛蘭私の商人のみは程能く其難を免れしが次で土人は Pittsburg を取圍みしも英吉利の援兵の爲めに退ひ返へされ終に其場を引き去りたり

扨も Pontiac は自分の手に Detroit の地を奪わんとて深くも望みを抱きしが當時此地の殖民は特更佛蘭私の同勢多くいよ〳〵繁昌に赴きて多くは其土地を耕し且つ近邊の土人仲間と親しく交易を開き居りしが Pontiac は何如にもして砦の中に押し入らんとて以後は懇親を結ばんと使ひを以て言ひ遣りしに其司令官の Gladwin は何にとて Pontiac が心の底に謀叛の企望あるを知らん容易之を受け引さしに Pontiac

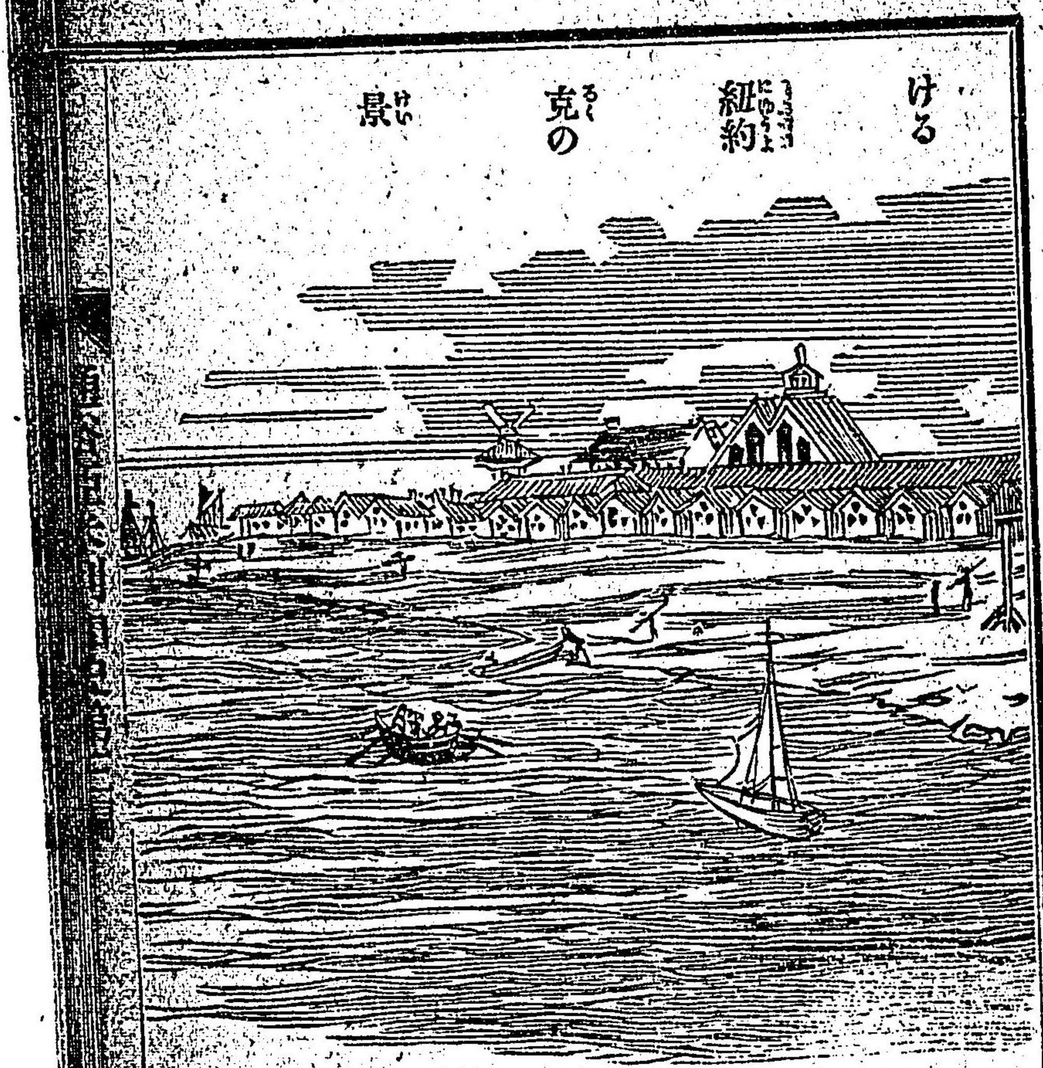
は窃に喜び各々其手筈を定めて一時に之に攻め寄せんと既に準備も整へしが英吉利人には僥倖にも兼ねて司令官の Gladwin より土人の女に麗皮の靴を一足誂へ置きしに丁度土人が攻め寄せん手筈を定めし前夜に當りて女は之を作りしとて捧げ來りし時こそ幸ひ Gladwin は喜びて今尚一足を作るべしと申し付けしに其女は樣子あり氣な面色にて其約束を辭しより扨こそ不思議なる擧動かな必ず深き次第もあらんと女に向て問ひ詰めしに果せる哉土人の仲間は今や攻め寄せんとの企望ありと聞くより Gladwin は猶豫せず直に防禦の手段を盡くして土人の來るを待ち擣へしに Pontiac は我事の果して敵に知られしと見るより合圖を見合せしに佛蘭私の司令官は使者を送りて Pontiac を責め問ひつゝ其翌日に唯獨りこれを其場より放逐して一時平和の模樣とありしも佛蘭私の砦は永の月其困難いや增して殆んど今日の食物も乏く且暫くは土人に向て戰の端を開かざりしも何時又も土人より襲ひ來らんも計り難く土人の方は其年の夏の季には Pontiac が選し置きたる兵卒も今は追々其數を

減じ且つ其種々の仲間の中よも互に不和を起し來て今い是非とも Pontiac を此場に出して處置することいとも必要の時とありたりされば Pontiac い飽までも英吉利人を攻めんとて戰の準備ゐ心を盡し且つ一ッの銀行ゐ齊しき仕組を設けたりしゞ其方法い今爰よ一の買物を要する時い其買物の形を記し且つ Pontiac が仰とせし海獺の圖を畫きたる木の皮を以て今日の紙幣の如く通用せしなり是れ亞米利加ゐ銀行の起りし一ッの基源ありとゞ但し其他の土人の酋長い Pontiac が土人仲間と交り常ゐ游くして共に一致の運動をあすゝ至らざりしが其後一般土人の仲間い皆戰に疲れ果て英吉利の大將 Bradstreet が千百人の兵士を率ひて西の方へと來りつゝ平和を結ぶも戰ゐ開くも汝等が好みゐ由よべし何如あすやと土人の仲間に迫りて談判を開きしよ二十二種の土人仲間い皆一同よ喜びて千七百六十四年我桃園天皇の寶曆十二年の六月にいとも容易く Niagura よて平和の條約を結びたり次で Bradstreet い其の同年の八月に於て Detroit よ致着し Delawares と Shawnees を除くの外い一般ゐこれ迄英吉利人の敵となりし土人に向て和睦せしが Pontiac い和睦の約よ調印すべきことを嫌ひて Illinois 土人の獵場に歸り更よ英吉利人を難たんとて其黨類を集めしゐ Peoria と名すけし土人仲間い共よ寡りよ預かりしが忽ち Pontiac を召捕へて其他の土人の酋長のみ集會なせし前ゐ牽き出し終よ磔刑よ處したりしい英吉利人の手よ取りて亦幸福のことありけり

○英吉利殖民の風俗及び其狀態の事

曾て英吉利人が新世界の亞米利加州よ移り來て千六百七年我後陽成天皇の慶長十二年に始めて民を殖へしより千七百六十三年我桃園天皇の寶曆十二年よ至るまで大凡一百六十年の間を過ぎし成立の大畧を以てこれ迄に次ぎを重ねて載せしが今亦爰ゐ英吉利人ゞ民を殖へたる北亞米利加の土地を分ちて南と北と中央の部分とよ境を立て其前後と次第とを暫く復へりて書き載せんゐ南の部分にい千六百零七年よ始めて Virginia よ民を殖へ千六百六十年我後西天皇の萬治三年にい北の Carolina よ民を殖へ千六百七十年我靈元天皇の寛文

千六百五十年を於て十二年我中御門天皇の亨保十七年に南の Carolina に民を殖へ千七百三十年に Georgia に民を殖へ又其中央の部分に千六百十二年我後水尾天皇の慶長十八年に New York に民を殖へ千六百二十四年我後水尾天皇の寛永元年に New Jersey に民を殖へ千六百六十一年我後西天皇の寛文元年に Pennsylvania に民を殖へ千六百八十三年我靈元天皇の天和三年に Delaware に民を殖へ千六百三十四年我明正天皇の寛永十一年に Maryland に民を殖へたり又其北の部分にて千六百二十年我後水尾天皇の元和六年に Massachusetts に民を殖へ千六百三十三年我明正天皇の寛永

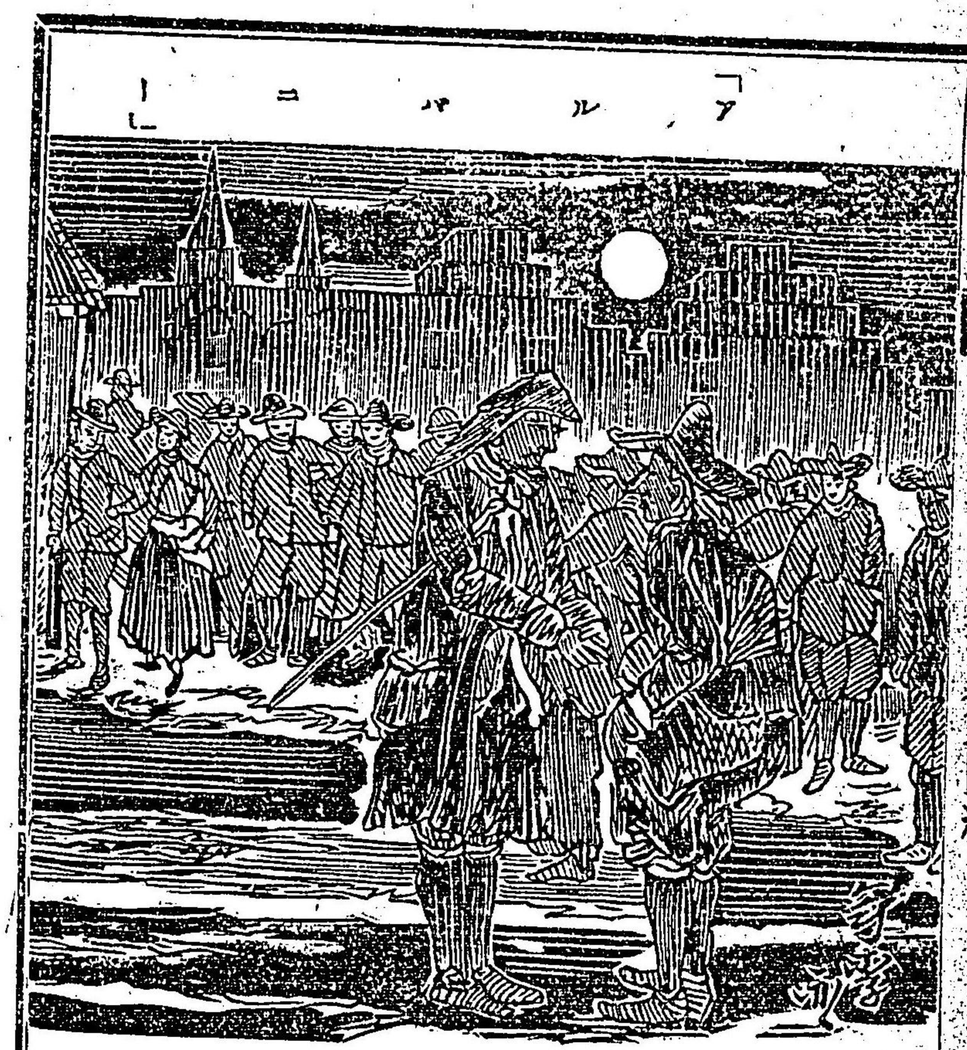


紐約の克景

十年より Connecticut より民を殖へ千六百三十六年我明正天皇の寛永十三年より Rhode 島より民を殖へ千六百二十三年我後水尾天皇に New Hampshire より民を殖へしが其殖民の同勢い都合十三の仲間に分れいとも勉強と辛抱の力を積みて撓みなく月を逐ひ歳を重ねていよ〳〵幸福の端を開き千六百六十年我後西天皇の萬治三年に其同勢の總數い合せて十萬七千人 Massachnsetts と Pennsylvania とい其中特より人數多く又其同勢の中に於て別に三十萬の黒奴ありしゞ新英吉利より一萬五千中央の部分に八萬人南の部分より二十一萬人とろれ〳〵之を分配して皆奴隷より使ひたり此時亞米利加の都市より於て特更人の數ありーい Boston 及び Philadelphia にて千七百五十三年我桃園天皇の寶暦三年より各々共より少なくも一万八千の人數を有ち New York より住みし人民い大抵一萬二千人なり此 New York より寺院を設けしい曾て和蘭人が砦の傍に建立せしより始まりしも千六百九十六年我東山天皇の元祿九年に始めて法敎の寺院を建てたり又其家屋い幾何ありしや亞米利加革命の乱を起せし以前の數い精密み調し者とて更ゐなく今より之を知り難しと



あん又當時 New York よりい規則を以て食物の價格を定めしが當時一磅の牛肉い四 Pence 一「ペンス」いの價なりけり又亞米利加の石炭鑛い當時一も開けし者なく人民い唯薪木を以て日々の食物を煑焚せしと云ふ又 Albany の都市に住みーい人民い曾て和蘭より殖へゝる民の子孫にて或る時瑞典の旅人に此都市を過ぎて其土地の模樣を見分せし者ありしが人民い皆家屋の床に屈みて自ら坐を占めつゝ若き人人と夕暮にい共より親しく集ひ合ひ其場を通行そる人より於ていい必ず其都市の模樣を譽め或い其人民より一々禮儀を盡せし上より其場を過ぐるの風俗をなせしと云ふ又亞米利加革命の乱を起せし以前より於ていい唯九箇所の學校に聊か似ゝる者ありて一も十分準備せし公立學校の設なかりしが千七百六十四年後櫻町天皇の明和元年より始めて Philadelphia に醫學校を設けたり又當時 New York の Hall 街より於て僅のより書物の數を集め一週間四 Pence 一「ペンス」いの價を以て人の借讀に供へしも未だ一ッの圖書館と云へる者なく千七我三錢六厘 我桃園天皇に始めて之を New York ゐ設けたり又千七百年我東山天皇の百五十四年の寶暦四年 元祿十三年



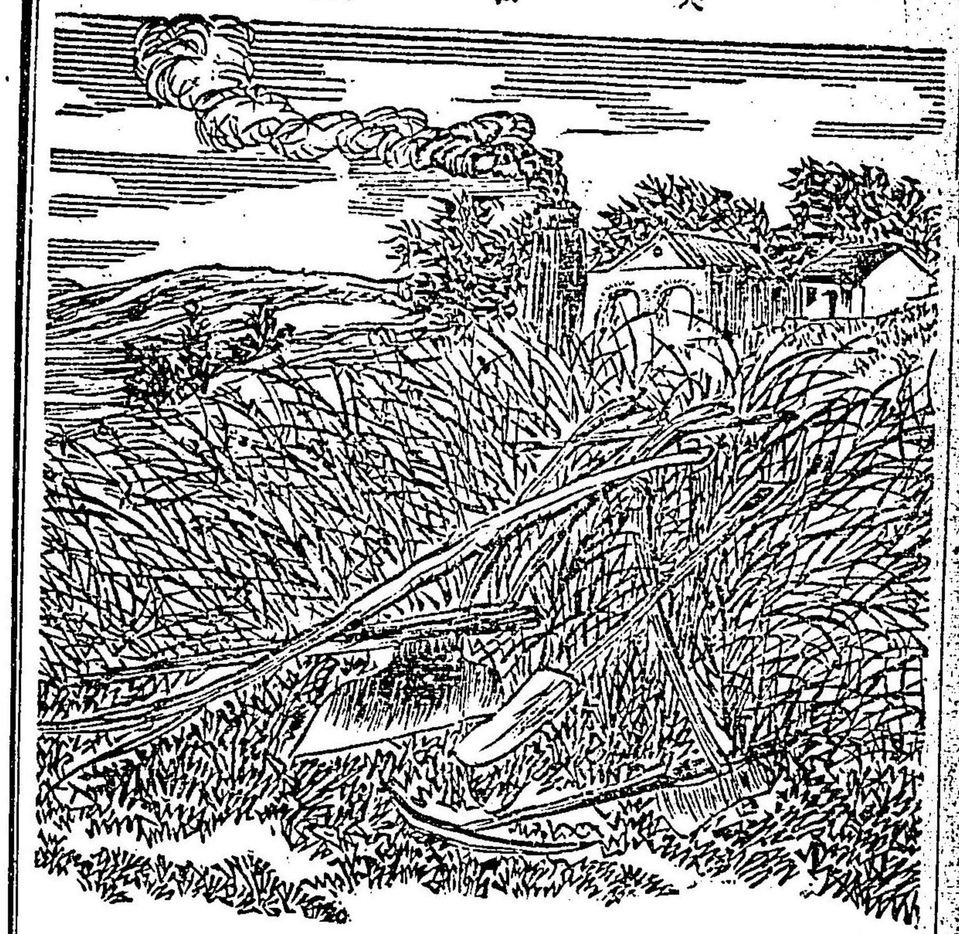

の頃ゟ於て唯亞米利加ゟ四箇の出版器械あり一のみにして新聞紙ハ千七百四年我東山天皇ゟ Bartholornw Green と云へる人より始めて之れを發行したり此新聞の題號を Boston News Letter「ボストン府」新聞記字の義と云ふそれより千七百五十年我桃園天皇ゟ寛延三年ゟ Franklin ハ Philadelphia ふ於て一の新聞を發行せしが此時ゟハ亞米利加全州に七種の新聞ありしも毎日之を發行する者なくそれより四十年を過ぎ千七百八十九年我光格天皇に至り十九年の寛政元年に至りて Boston の都府より Federal Orrery 共和契約の盟と名づくる一の新聞を發行せしがこれ亞米利加州ゟ毎日の新聞

を發行せり始なりけり其後殆んと六十餘年の後乃ち千八百五十年我孝明天皇よ至りて亞米利加合衆國ゟ發行せし定時及び毎日の新聞ハ二千五百種餘の數ゟ上り其一年の紙數ハ總計四億五千萬枚の高に達したり又亞米利加革命の以前よ於てハ書物の出版甚だ少ゟく歴史宗教政事等の僅よありしのみにして詩を作り又小説を綴りしものハ尚未だ一も當時ゟゟかりけり

又當時品物の製造ゟ就てハ深く殖民の注意を喚起し特更北の地方に於てハ人民の勉强特に多く其製造の品に依りて自分の用を足すのみゟらず本國英吉利其他の諸國よも種々之を輸出せしが特に鐵皮草及び帽子等の品々ハいとも多分の利益よて其盛大を增し來りし勢を見て英吉利政府ハ其本國の製造人に差響かんとの掛念を抱き其技術と製造の進歩の道を妨げしハ啻に Andros の如き壓制を取りたる政治官のみならず本國英吉利の國會よても尋で之を妨げ乃ち千七百三十二年我中御門天皇の享保十七年よ國會ハ一の條例を作り來て亞米利加殖民の帽子を作れる職人の數に限りを定め勝手よ多分の帽子を製して他國よ出そを禁せしが若し新英吉利の人民に當時帽子の製造を自由よ任かして禁せざりせハ全世界中人民の用ゐる帽子ハ此地より必ず之を充たすに至りしゟらん又千七百五十年我桃園天皇ゟ本國英吉利の國會ハ鐵と鐵鋼との製造に一の條例を作り來て其製造の數を限り若し其過分を作りし者ゟハ之ゟ百磅一磅ハ我圓の罰金を申し付けたり又本國の英吉利政府ハ亞米利加殖民の商賣よ種々の壓制を用ひ來て其進歩を妨げたりしも海邊の交易いと多く漁の業ハ常ゟ榮へて當時新英吉利の漁子等ハ巨大の鯨を求め得んとて北極の氷海まで船を進め和闘人と爭ひしことゟり

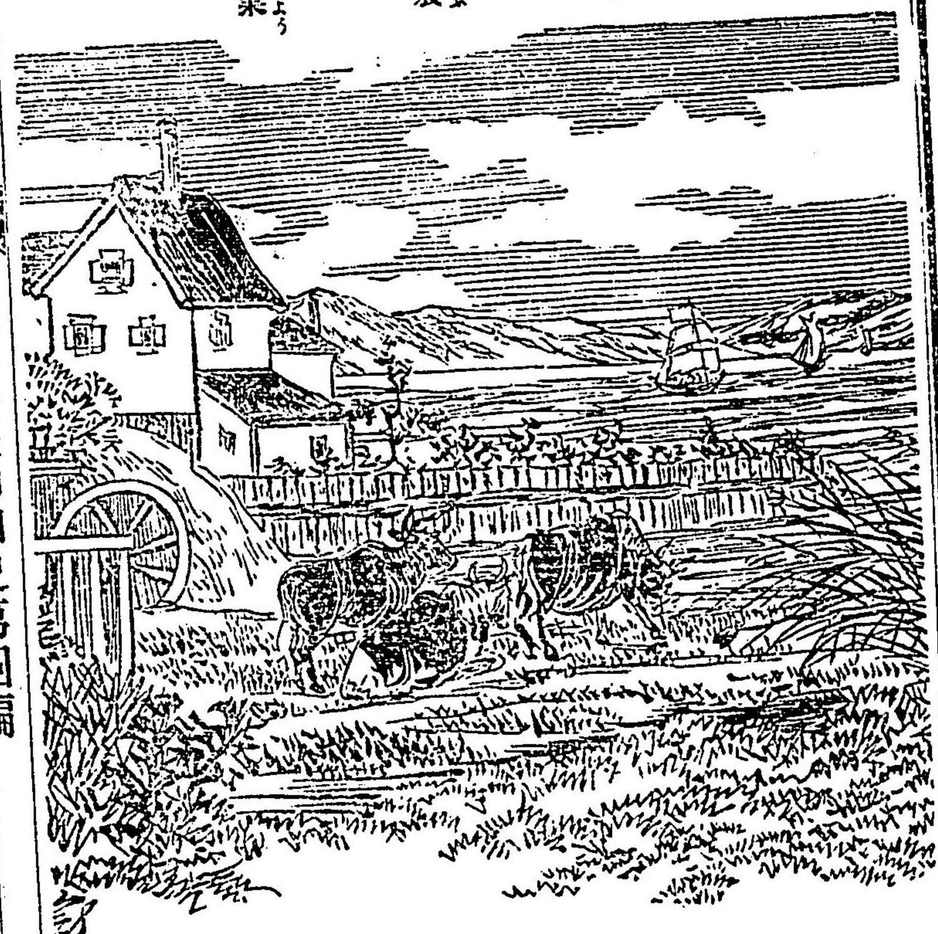
又農業の進歩よ就てハ永の歳月佛闘私人と英吉利殖民との戰を開きし後に至るまで誰れとて心を注がざりしゞ其後茂林の中を探りて大よ產物の數を見出し西印度と本國の英吉利よ向つて輸出せしも尚農業の事よ就てハ一向捗取る景色ゟかりしが其後 Virginia よ烟草を植へ初め大よ其產を擴め來て千七百五十八年我桃園天皇の寶曆七年にハ七千

## 英吉利殖



萬磅一磅ハ我を輸出す百二十匁るゐ至れり又烏麥ハ千六百三十三年我明正天皇の寛永十の頃ゟ於て Massachusetts に之を植ゑ初め又葡萄ハ葡萄酒を製造せんとて千六百二十二年我明正天皇ゟ始めての寛永九年 Virginia に之を植へしが千六百九十二年我東山天皇の元祿五年ゟハ南 Carolina ゟ之を移し又千七百六

## 民の農業



十九年我後櫻町大皇にハ佛蘭私殖民の教へに由りて Illinois 土人め手に之を植へたりされども葡萄の耕作ハ尚近年まで進まざりしが今ハ西の地方ゐ開け New York 及び Connecticut にも漸く之を植るに至れり又麻と亞麻の類ハ千六百七十一年我後櫻町天皇の明和八年 Maryland ゐ之

を植へ初め千七百零一年我東山天皇のゐい Massachusetts ゑ之を植へたり又茶い千七百七十年我後櫻町天皇の明和七年ゑ始めて之を Georgia に植へ付しも其出來甚だ充分ならず米い千六百九十五年我東山天皇元祿八年の元祿八年始めて之を Carolina ゑ植へーが千七百二十九年我中天皇の享保十四年に米の産出いよ〳〵増加し二十六萬四千四百八十八 Barrel 升目の名一バーレル」ハ六斗四升の輸出高ゑ達し今此土地と Georgia ゑ第一を占むる産物とあれり又絹の製造六合餘い遠き以前ゑ Virginia に導き入れし者ありしが其政治官い千六百六十九年我後櫻町天皇の明和六年ゐ規則ゐ設けて之を導き千七百三年我東山天皇の元祿十六年ゑい南 Carolina に之を初め千七百五十九年我桃園天皇の寶暦九年にい Georgia 一般の事業とありて毎年一萬磅一磅ハ我白二十匁の生絹を生ー他にて製せし絹よりも本國英吉利の London 府ゑ於て其絹一磅の目方ゑ就き半弗以上の高價ゑ捌けたりしが其後久しく其業を止め次て再び之を起せーより非常の盛大を占むるに至らざりしい亦殘念の事とや申すべけれ又綿の製造い千七百九十一年我光格天皇の寛政三年ゐ始めて輸出の品物ゑ加わり當時南の地方のみゐても既ゐ數千



磅の綿を得しが千八百六十年我孝明天皇ゐい四百磅積の俵五百萬ゐ過き二千萬弗の價ふ上りたり但し亞米利加革命の亂を起せし十五年以前ゑ於て Washington の妻い十六の車を連し器械に以て綿より糸を牽しとゐん又青黛い千七百四十三年に Lucas と云へる婦人ありて始めて之を南 Carolina に移し又西班牙産の馬鈴薯い千七百六十四年我後櫻町天皇より之を新英吉利ゐ植へ初めけり

又當時亞米利加の旅路と音信の便利ゑ就ひてい其事いとも狹まくして郵便もなく電信もおく又鐵道と蒸氣船のおさい勿論一艇の車も未だなかりしが其荷物を運送し又旅人を送るゑい一人の舟子と童子にて小舟に掉し海岸に沿ふて波間を通ひしが New York より Philadelphia まで三日を以て之に達し若しも風の都合ふて海の表ゑ出づる時い一週間を費やしたり又 New Jersey に旅するゑい車を借りて陸路を過き New York より一週間ゐ二度の往復をゐせしとなん又千七百六十五年我後西天皇の寛文五年ゑい新に一の道筋を作り發條おき車を以て其往返の便利を開き又其翌年ゑ New York より

Philadelphia まで二日を以て到着すべき約束の旅路を開き又千七百七十二年我後桃園天皇の安永元年ゝ Boston の都府より Providence まで二日を以て達すべき車の往返を開きしがこれぞ亞米利加州内に飛脚車の便利を開きし始めとこそゝ知られたり

扨これ迄ゝ亞米利加州に民を殖へたる來歷を說き又其進歩の有樣を記すゝ就て其殖民を各地ゝ分ち或ゝ Massachusetts と云ひ或ゝ Connecticut の同勢と云ひしが如く載せ來りしもこれより後ゝ一般之を一ッの國民と做すべし又これ迄ゝ亞米利加ゝ民を殖へたる本國の英吉利人より出でしを以て其殖民をも英吉利人と云ひ或ゝ英吉利の同勢と書しもいよ〳〵亞米利加の殖民ゝ一致協同の力を以て本國英吉利の政府に對し革命の亂を起すの時ゝ至れゝこれより後ゝ本國の英吉利人に區別して亞米利加州の殖民ゝ一般之を亞米利加の人民とこそ喚做すべし

○亞米利加大革命由來の事

そも〳〵亞米利加州の人民ゝ其本國の英吉利政府が壓制の苦難に堪へずして我自分の宗門を信じ我身体を保護するの自由を求め得ん爲めゝ人情の常ゝ戀ひ慕へる其舊里を離るゝの悲しさよりも壓制の苦痛ゝ忍び難しとて遠く歐羅巴より數千里の大西洋を渡り越し危難を侵して亞米利加ゝ民を殖へたる人々の血統を受けし子孫ゝして尙も本國の政府より忍び難なき苦難を受けしも飽まで辛苦と勉强の力を積みて漸くに其幸福を增し來り終ゝ今日の亞米利加を開きし者と知られたり但し其始めゝ當りてゝ人民の勢力いと弱く憐れ甚なき貧苦の境ゝ一々本國の英吉利より遠くも其支配を受けしが其後聊か同勢が自分ゝ自分を治むべき所謂自治の精神を起せし時ゝゝ本國より又も政治官を送り越し其地の同勢を支配せしめ又其同勢の勉强と辛苦に由りて貧しき樣より聊か富有の境に達し衣食の道も就きし時にゝ又も本國に租稅を徵集し此方ゝ一歩を進むれゝ彼方ゝ一歩の關係を加へいや增し來りし氣隨氣儘の制度ゝ遂ゝ亞米利加ゝ大革命の亂を導き其獨立の基源を開きしゝ時勢と云ひん乎天運と云わん乎既に本國の英吉利政府ゝ千六百五十六年我後光明天皇の頃よりして亞米利加

人民の商賣を壓し千六百六十六年我後西天皇の寛文六年同七十二年我後西天皇の寛文十二年同七十六年我後西天皇の延寶四年同九十一二年我東山天皇の元祿四五年よも齊しく此等の法令を發して其商賣を妨げしよ Massachusetts と New york の人民ハ或る時多人數の集會あせし時よ當りて公然として不平を鳴らしたり又亞米利加の人民ハ本國英吉利の政府に對し租稅を納むることゝありしも本國政府ハ何用ありて此租稅を徵集せらるゝや又此租稅ハ何れの處ゐ使ひ拂わるゝことあるや本國政府の國會よ亞米利加人民ハ一人の代議士を出して其事よ吻を容るゝ發言の權利を許せしことあるより其理を知らん樣もあく若し代議士の出席を許し難しとの次第あれバ本國政府の國會ハ亞米利加州の人民に租稅を課する道理あしと言ひ張る者も多ゝのり～が當時の英吉利王 George 第二世ハ其理の何如を究むる意あく種々の品物にまで租稅を課して徵し集めたる不法の政治よ今や亞米利加一般の人民ハ皆疑惑を起し何れの處にも代議士を出その權利を許さずして勝手ゐ租稅を取り上るとハ不法とや云わん無理とや云わん乃ち壓制とや申さべけれと異口同音よ喋々と言ひ張りしこそ道理あり時に新英吉利の人民ハ租稅の附くべき品物にて之を他方ゐ輸出するゐハ竊よ收稅官の眼を忍びて常よ海岸に運び居りしよ千七百六十年我桃園天皇英吉利の國王 George 第三世が王位に登りし時に當りて亞米利加の新英吉利よ在勤せ～知事と裁判官よ諭達を下し斯く其地の人民に於て租稅の附くべき品物を拂ひもあざて輸出する等不正の所業を致すよ於てハ船中ハ勿論人民の家藏までも一々に立合の上之を開き吟味を遂げて收稅官ゞ租稅を收むるよ洩れあさ樣補助よ心を添へらるべしとの內意を申し來りしに知事と裁判官ハ之よ隨ひ Salem と云へる處に於て始めて之を實行せしゐ人民ハ又も不平を鳴し縱令國王の命令ありとて我任家の內ゐでも官吏の來りて吟味する道理の何にとてあるべきやと言ひ張る者も多かりしより一の裁判所を Boston に設けて其理非の道を裁判することゝありしゐ新英吉利の人民ハ當時名高き法學士よしていとも雄辨の聞へありし James Otis を代言人とあし其辨論を盡さしめしも本國政府の壓制ゐ何よとて勝を制し得ん Otis

い終よ辨論の巧利を貫ぬく道もなく詮方なくて自分より其代言を辭退せしが人民の之を傍聽せし者い心を焦ち腕を摩り遺憾いこゝに已まざりけり時よ Massachusetts の義士仁人い飽まで人民の權利を主張し縱令腕力ゐ訴ふるとも決して此不正の處置よ屈服するの道理いあらじと健氣よも遂ゐ之を決定したりされゞ又南の地方ゐても人民い齊しく此精神を發せしが本國政府い規則ありとて英吉利の寺院を Virginia よ建立し其僧徒の給料い一人ニ付き一年よ千六百磅一磅い我百二十匁の煙草を取ることゝあせしよ千七百五十八年我桃園天皇の寶暦八年にい煙草の產出拂底にして僧徒よ拂ふべき道なきより之に代りて僧徒の給料及び其他の役人よ拂ひ納むべき給料い煙草一磅の割合に二一「ペンス」Pence 我三錢五厘餘の現金を納めんと同勢の支配役より申し觸れしに僧徒い不法よも之を拒み尙も烟草の訴へを起したりそれより千六百六十四年我後西天皇ゐ本國英吉利の政府より亞米利加殖民の鎭撫ゐとて一萬人の兵隊を遣わし且つ其同年の八月五日ゐ一の砂糖條例を作りて之を亞米利加の領內に施ー一々租稅を納めしめーに又も密賣する者多く一時い販路を保ちしも終にい新英吉利の殖民がこれまで手廣く佛關私人と西班牙人の西印度に住みたる者と交易せし道も殆んど盡き果てゝ今い全く其跡を絕ちしより其損失を償わんとて殖民い其後本國の英吉利商人より買ひ求めし衣服い一切之を買わず成るべく自分よ之を製して其衣服を用ひんと一般に之を決定せしが其差響い本國の商人社會に及び來てこれまで亞米利加の殖民より買ひ求めたる品數い實よ莫大のことなりしも今い大ゐ其數を減し當時殆んど一萬五千の人數ありし Boston の街市ゐ關る商賈よても千七百六十四年我後西天皇の寬文四年よい英吉利商人より賣捌きし價格い一萬五千弗を減したりされども本國の英吉利政府い尙も其事情を察せず砂糖糖密青黛より酒珈琲ゐ至るまで一々之に租稅を課して憚る色なく壓制の手段ゐ爰に施せしい實に愚かなる次第ありけり

頃しも又千七百六十五年我後西天皇よ本國英吉利の政府い一の印紙條例を發行したりそも此印紙條例い當時有名なる壓制の器械よして一の標目契約書類及び證文の書

類等苟よも人と約束を結び又ハ其事をあすよ於てハ必ず其印紙を貼るべき者にして此印紙の貼付なき者ハ何事よても無効の者となし新聞紙及び暦の類より一枚摺の書物よても半Penny我殆んど五厘より四Pence一「ペンス」ハ我三錢餘の印紙を貼用し又廣告の類よ於てハ二Shilling一「シルリング」ハ我十錢餘の印紙を貼用すべき次第にして始め此印紙條例が英吉利國會の議事堂よ議題とありて現われしや上院ハ難あく之を可決せしも下院ハ之よ異議を唱へ特よ議員のBareと云へる人ハいとも熱心ある雄辯を振ひ喋々として其非を議場よ論せしも議長ハ其議決を取らんとて之を鴻場の議員に問ひしに三百人の可決ハ對する五十人の非決ハ一て終ハ多數ハ壓し伏せられ之を實地よ施すことゝありしが當

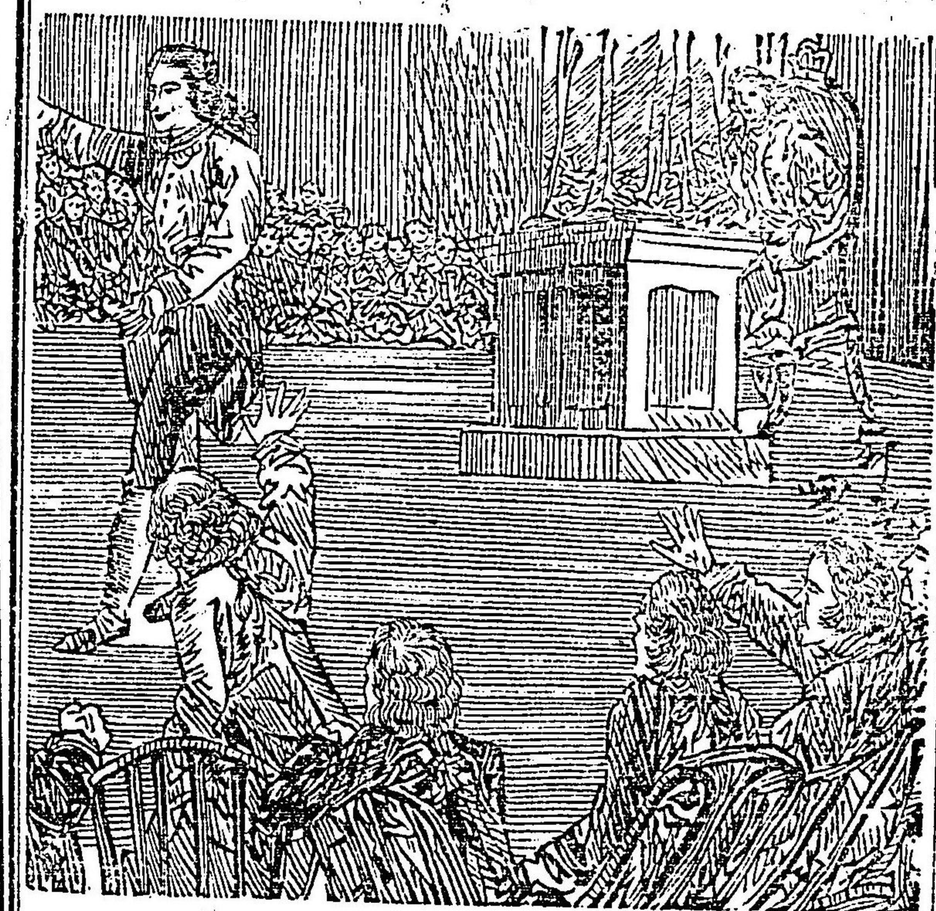
英吉利國會議員バール氏

時Franklinハ英吉利の都府のLondonに逗留せしよ兼ねて英吉利人よ尊敬せられ此印紙條例の事ハ就ても如何あらんと尋ねられしハFranklinハ眉を蹙め縱令實行せらるゝとも決して亞米利加人民の隨ふ樣もあかるべしと公然之よ答へたりしが其後印紙の條例ハ程なく亞米利加の人民ハ施そこゝとありしを見るよりFranklinハ大に歎息し其友人なる亞米利加のChaleg Thompsonよ書狀を贈りて自由を照さん大陽も今や西よ傾きたれバ亞米利加の人民ハこれよりして唯勉强と儉約の燈火を照さて覺悟あれと言ひ送りしにThompsonハ我們ハ一種の性質ある炬火を照し申べし必ず御心配致されまじくこれ我們が一般の殖民に抱ける思想ありと不正の政治に隨わんよりハ寧ろ戰を開くべき意味を含みし言詞を以てFranklinよ返書を送りたり折しも印紙の條例ハいよ〳〵實行に至らんと其評判のVirginiaよ始めて到着せし時よ當りてVirginiaの總代ハ速よ其會堂ハ寄り集ひ其條例を評議せしも今や本國英吉利政府の處置に聯か反對の模樣を爰に論じもせバ忽ち迫らん同勢の危難を奈何よ

あすべきやされども此條例の主意に就ては聊かも受け引くことは成り難しと互に顔を見合せて暫し猶豫居たりしが其坐に一人の少年あり忽然として椅子を離れ滿坐の中に突立ちて諸君よ諸君と呼び掛けしいこれぞ亞米利加に有名なる愛國義士の一人なりしてPatrick Henryとこそ知られけり

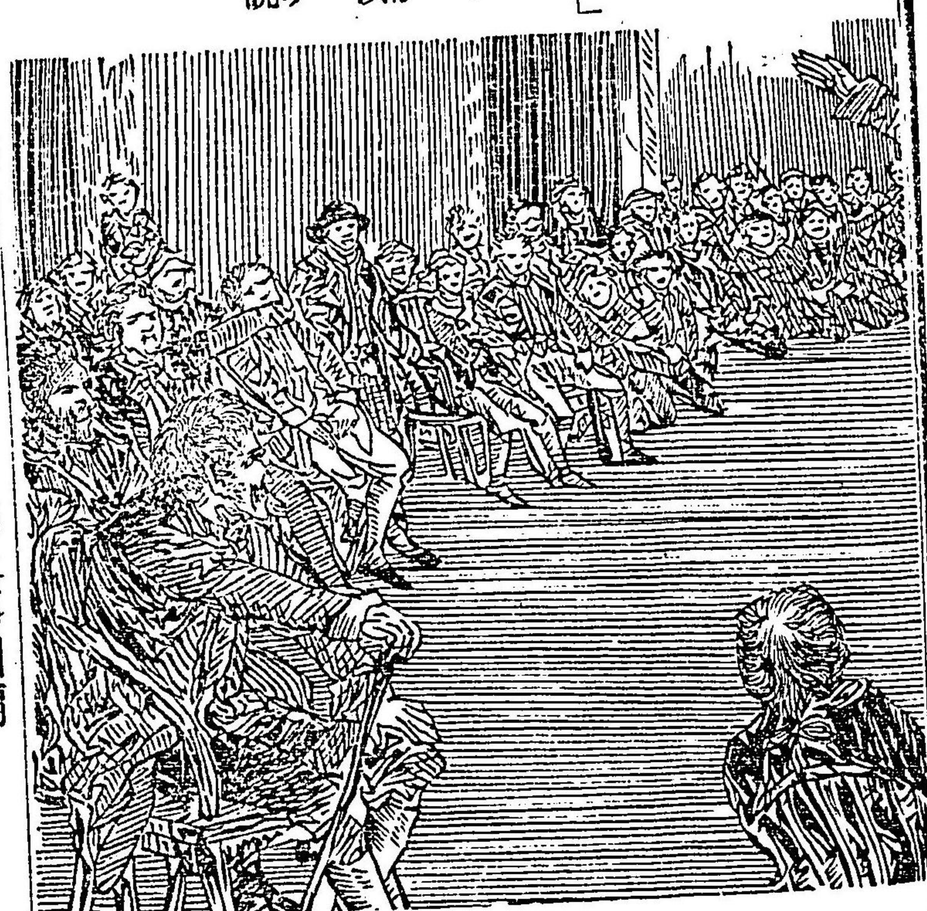
そも此Patrick Henryは千七百三十六年我櫻町天皇の元文元年に亞米利加洲のVirginiaに生れ性來天然の風景を好みて常に山林田野に赴き獨り自分の書を讀みて此上もなき樂みとなせしが其精神は固より剛直なりしもこれとて熟達せし者もなく其教育も數々變りて或は商業を脩めんと欲し或は農業を學びたりしも一も其効を遂げし者なくそれより心を法律學に移し纔に六週日の後に至りて既に其大意に通せしも二十七歳の時までは人に勝れし名譽もなかりしが千七百六十三年我桃園天皇の寶暦十三年に僧徒の給料に拂ふべき煙草の拂底より一磅十匁我百二の目方にて就て二Pence「ペンス」の一錢餘は我三錢餘を代りに納めんと同勢より之を申し出でしを僧徒は之を聞かずして自らHonoverの裁判所に訴へを起せし時に當りてPatrick Henryは驚然と心に怒りを發して同勢の中より學者と云はるゝ人より先きに裁判所に身を進ませて突立しが僧徒はPatrick Henryがいとも不作法なる樣を詠め口を開きて笑ひけり此時後に附き添ひし同勢はPatrick Henryが如何をるやと氣遣しく汗を流して扣へ居りしにPatrick Henryは聽とる色なく爰に答辯を始めたりしが何等の愚かを言ふことなるやと誰れとて心を止めざりしに他まで熱心なるPatrick Henryが兩眼には怒りの血を注ぎ其容貌には勇氣を具へ其聲音には大胆を現はし爭ひ難き證據を執て滔々流るゝ雄辯を振ひ初めしに傍聽せし同勢は互に顔を見合せ思ひ掛けなき人物なりと驚き恐れて氣も心も醉へるが如く奪はるゝが如く眼を注き耳を欹て滿場いとも靜まりて傍に人のなき如く皆其答辯に心を籠めて神妙に之を聞き居たりしが僧徒も今はHenryが雄辯に交じる惡口雜言憚る色なく進べ立てゝいとも恐怖の心を生し裁判官もHenryがイザ御裁判を蒙りたしと勢を込めて願ひ出しを聞くより煙草の一磅に代る代金の二Pence

「パトリック、ヘンリー」



い決して不當あらざる僧徒が出せし訴たへい一Penny一錢我殆どを以て至當あらんと宣告せーを聞くよりも傍聽の者い滿面ゑ皆愉快の色を現わし扨こそPatrick Henryよ勝利勝利と滿場ゑ動搖めき渡る聲を放ちて一度ゑ其坐を立ち上がりつゝ多勢の肩ゑHenryを擔ぎていとも

「ヘンリー」の演說



勇ましく遂ゑ其場を引き揚げしが今又Patrick Henryい印紙條例の議論の席に默ーて同勢の先進者と云わるゝ人の說を聽き列坐の中に加わり居りしゞ時に片手ゑ持ち來りし古き法律書の餘白の上にいとも嚴格ある言詞を以て我殖民の權利を定むる五箇條の決心を書き記し

且つ本國英吉利の國會よりして租稅を課する權利ハあらざると記せし上ゐて聲高朗に讀み上げしに其列坐の面々ゑも心を國王の方ゐ寄せし所謂王政黨の者ありて Patrick Henry が讀みよげし條ハ忽ち一場の大議論を開らきしゑ Patrick Henry ハ此等の議論を壓せんとの意氣込みゑて我も一人の王政黨なりされども今や國王ハ我國を以て奴隸に落さん不法の心あるゑ於てハ我等の決して服せざる所ありと述べ來りし時までハ尙も滿場の議論喧しく宛ながら鼎の沸くが如くなりしゞ Patrick Henry ハ大音上に諸君知らずや知らずや諸君よ羅馬の Caesar ゐハ其臣 Brutus ありて Charles 第一世にハ其臣ゐ Cromwell ありて今日の英吉利王 George 第三世にハ果して何人のあるべきや暴逆あり暴逆あり暴逆ありとハ今日の George 第三世を除きて他ゐあるべきか George 第三世ハ是等の適例あるに依りて少しく自ら顧みる所あれよと眼を瞋らし髮を逆立ていとも劇しく說き出だせーゑ滿場の議論も爰に至りて宛ながら大風の止みたる如く靜肅として定まりしがいよ〳〵 Patrick Henry が提げ出でたる箇條ゑ依りて議論ハ爰に決したり此時 Virginia の一少年ゑて Thomas Jefferson と云へる者あり當時尙二十二歳の學生ゑして平生いとも自國の歷史に心を籠めて調べ居りしが今此席の片隅に坐して Patrick Henry の演說を聞き深くも心ゐ感激してこれより後の擧動ゑ我と我身を考へつゝ暴君に對しての敵對ハ神ゑ對しての從循ありと健氣ゑも之を決したりとぞ次て Patrick Henry が熱血を注ぎし精神より亞米利加州の何れゑ往くも皆一同に之ゑ染み込み喋々其非を唱へ初めしゐ印紙條例の發行ハ固より Virginia の一地方に止まる者ゑあらざりしより千七百六十五年我後櫻町天皇の明和二年の十月にハ既ゐ Massachusetts, Rhode 島 Connecticut, New york, Maryland, Delaware 南 Carolina, Pennsylvania の同勢ハ各々三人の委員を撰みて New york ゑ集會せし め印紙條例の不當を論じて人民固有の權利を主張し租稅を拂へべ代議士あり代議士を出せハ租稅あり畢竟租稅と代議士とハ一致關係の者ゐして互に離るゝ者あらず本國政府ハ今日より代議士を出すの權利を許さや又ハ租稅を免さるゝやの願書を作り

て英吉利の國王及び國會に捧げ出でしも一同が一致の心に出でし者ゝして動かし難き次第ありけり

扨も又亞米利加の新聞紙ゝ縱令尚十分ゝ整ひざりし紙面を以て發行せしも大に社會公衆の思想に感激を起さしめ其論說ゝ喋々として何れの紙面にも一致せし心と筆を執りしが如く痛くも印紙條例の道理に惚ゞざる次第を辨駁せしが此同年の中ゝ於て又も亞米利加に多人數の同志ゝ共ゝ四方より集りて所謂黨派の組織を爲し其名を自由の子孫と唱へしが其黨員ゝ殊更に Connecticut, New york, Massachusetts より出てし者多く又其同年の末頃にゝ其他の同勢も之に同意し皆此黨員の中に加わりて飽まで本國英吉利の國會に向て敵對の心を爰に結びけり時に又亞米利加の人民ゝ一種の黨派を生じ來れり此黨派の起りしや曾て Franklin が亞米利加の人民を思ふ心より英吉利 London の都府に在りて其友人なる Charles Thompson に宛てたる書狀に今ゝ早や自由の大陽も傾きされば亞米利加の人民ゝ唯勉強と儉約の燈火を照す覺悟あれと言ひ遣したる趣意ゝ感じて男女老幼の差別なく深くも驕奢の心を戒め自ら修むる勉強の力に生活の道を作りて寧ろ本國英吉利に決して服從あすまじと決心したる一類の固くも結びし者なりーがこれまで本國の英吉利より同勢ゝ衣服を買ひ入れしも今ゝ全く之を求めず聊か富みある人民ゝ我家内ゝ衣服を作りて自ら之を用ひざりーが毛織の品の不足せん恐れを防がん爲めにとて又もこれ迄食用に屠りし羊ゝ一頭も今後ゝ之を屠りしことなく又これ迄流行の衣服を好みし人民も今ゝ自ら毛を剪み自ら紡ぎ自ら仕立てゝ之を自分の衣服に用ひ全く外國の輸入に係わる衣服ゝ之を防きたりーが今や亞米利加の人民ゝ田舍も都府も押し並めて斯く其生活の道を變じ富みたる者まで外國の品ゝ一切今日の求めを絶ちし決心を實地に現わし來りしより本國英吉利の製造人及び職人の製造せし品ゝ大ゝ亞米利加に輸出の道を失ひて殆んど是等の者までも其生活に差響さ空しく其品を家に藏めて不滿を泄さん樣もなく皆口々に本國政府の處置に非難を容れざりけり

折しも其同年我後櫻町天皇の八月ゐ何物あるや Boston の都市の南ゑ生茂る古き椰子の樹の枝ゐ掛けし二個の偶像を見出せしが一ゝ印紙條例の役人に似せ一ゝ大なる長沓より角を生せし人間の頭ゑ似せたる者にして見物ゝこれぞ何事の意味を謎ゑ示せしおらんといとも此場ゑ集ひけり但し是れ一撰の人數を集めん爲めゐ計りさる一つの手段を設けし者にーて見物の十分集ひたる其夕暮ゑ人形を下し棺を載ずべき車ゑ上して眞先きに之を引き行きしが見物ゝ其後ゑ隨ひ自由と財産と制限おし印紙條例ゝ此世ゑ立たずと大音上げて一同ゑ Boston の方ゑ馳せ廻りつゝ最後ゑ英吉利の役人なる Oliver の下屋敷に赴きしが一撰ゝ兼ねて Oliver を以て印紙條例の役人と思ひ込めたる遺恨ゑて其家屋を打ち毀ち其木材を手ゑ手ゑ取りてそれより又も市中を馳せいとも恐るべき吶喊を作りて今度ゝ Oliver の自宅ゐ赴き偶像を卸して其人と斬罪ゑ處する樣を示し垣を倒し窓を破り又もそれより Fort Hill と云へる一ッの小山ゑ赴き祝ひ火おりとて偶像を燒き又も手に手ゑ其場より杖と棒とを持ち來りて更ゐ Oliver の家に赴き花園を荒らし表屋を毀ち亂暴狼籍を極めしゐ Oliver も今ゝ溜り兼ね漸く家を逃げ出でしに一撰ゝ又も戸を開き奥の間指して亂入り家具を一切打ち毀ちて暫しこれゐて滿足おりと一同これより引き揚しが其翌日ゑ Oliver の身ゝ印紙條例の役人にあらざることの證據を見て一撰ゝ爰に其人ゑ對する亂暴を見合せけり時に印紙の條例ゝ其翌九月一日を以て實行するゑ至るべしと其評判いよ〳〵高く其日限の眞近くも今や切迫せし時に當りて人民ゝ益々憤怒を增し印紙の賣下げを受けたる者ゝ偶像に形〳〵くりて火刑に處し種々の擧動を起し來ていとも不穩の有樣おりしゑ其始めて本國より印紙を載せし來船の亞米利加海岸ゑ到着せしや其場ゑ碇泊せし各船ゝ皆其旗を檣の中央に下げて不幸を弔ひ市中の人々ゝ死去の時に用ゐる鈴を打ち鳴らして皆葬禮の衣服を着し其市中を徘徊せしが又 New york の人民ゝこれぞ印紙を藏めたる箱と見るより乱暴ゑも忽ち其十箱を打ち毀ちたり又其商人ゝ條例の廢止を見るまで本國より決して物を仕入れずとて一同決心の旨を表

し混雜一方あらざりしが又もBostonの都府より於て何者あるや街々れ傍ゐ一ッの張紙して本國英吉利の印紙を賣下げ又ゝ之を用ゐる者ゝ先づ其財産と生命に心を付けよと書き上げたり時ゐ又紙の一枚より何者あるや目標ゐ一の大蛇の形を畫き其蛇れ頭の部分にゝNH新英吉利の二字を記し其身ゝ態と切々に畫きて一々同勢が各地名の頭文字を之に記し今後ゝ同勢一致して共より運命を維持するや又ゝ全く死そるやと謂わん計の意味を表わし之を各地ゐ發行したり又此日の黎明頃よりNew Hampshireにて會葬の鈴を鳴らせし者ゐりしに人民ゝ葬禮の衣服を飾りて忽ち衆より集び合ひ自由の二字を柩に藏めて之を八人の肩より荷わしめ小銃を放ちし響を合圖に兼ねて設けし墓地に送りて衆を會葬の式を行ひ今や土中に自由の二字を葬らんとせし折こそれ忽ち其柩の表に自由ゝ蘇生ゐーたりと文字の現われ出でしを見るより人民ゝ俄より勇み立ち喇叭を吹き大鼓を打ち立て勝利勝利と叫びけり斯る人民の擧動ゝ數々Bostonの都市より現われ又新英吉利New York, Maryland, Carolinasの各地より起りしことゐりしが特更New YorkとNewportよりてゝ種々の偶像を作り來て我們の忌むべき英吉利の政治官ゝ果して此くの如しと或ゝ首を打ち落し或ゝ之を絞罪より處し或ゝ之を火刑を行ひし等小兒ゐ齊しき戲も心に充つる怒の炎を泄さん道も他ゐあきより終よこゝに至りし者にして道理と云ふも可笑けれ

但し斯く亞米利加の人民ゝ本國政府の壓制より不平不滿を起し來て縱令死力を盡すとも飽まで之に抗抵せんと決心したる擧動ゐりしより英吉利の國王と國會ゝ尙も之を意とせずして其實行を試みんとせしも先づ其人民を鎭撫する手段を爰に要せんとて千七百六十六年我後櫻町天皇の國會を開きし議場に於て其方案を議題とゐし議員の討議に付したりけり此時有名なるFranklinゝ尙も英吉利のLondonゐ在りーグ此鎭撫の事より就てゝ如何ゐる方法を執るべきやと尋ねを受けてFranklinゝ我等ゝ既に今日の有樣とゐらんことを言ひたり英吉利國會の議員諸君ゝ何故斯くまで人間の天性を知るに疎きぞや今亞米利加の人民ゝ道理を以て制し得べきも租稅を課して代議

士を許その權理を與へざれゞ決して隨ふ者あらざ本國政府ゝ飽くまでも尙其目的を達せんとならゞ兵力に依りて試むるより他に其手段ゝあかるべしと憚る色あく言ひ放ちたり此時ゝ當りて本國英吉利ゝ其政治上に變革を來し亞米利加殖民の土地までも多少の變動を起せしより夫の印紙條例の實行ゝ就てゝ本國英吉利の國會ゝ非常の反對者を生じ來て一時ゝ容易に治まらざりしが終ゝ其實行を見合せしより人民ゝ大に之を喜びこれ迄亞米利加ゝ輸出せし景氣もこれより回らんとて互に之を祝ひ初め當時亞米利加商人の London ゝ來りて逗留せし者ゝ斯と聞より謝意を表わし London 市中の Thames 河にゝ皆其船ゝ色旗を翻へし市中の家々ゝ燈火を耀かし祝砲を放ち祝ひ火を焚き人民滿悅の心を表わせしゝ早くも之を英吉利より亞米利加ゝ向て傳へしかゞ亞米利加の人民ゝ亦既ゝ此事ありと聞くよりも手の舞ひ足の踏み場處も忘るゝまでゝ打ち喜び Massachusetts と Virginia の會議所よりゝ特更ゝ印紙條例の廢案に力を籠めし本國の國會議員に謝狀を送り且つ亞米利加人民ゝ投げを計りし



Barre, Pitt, Charles Greenville 及び Edmond Burke の爲めゝ一の肖像を其地に作り之を後世ゝ傳へんとて英吉利の國王に願ひ出でたり但し此印紙條例の廢案とありて亞米利加に自由の風を吹き初めし其人民の悅ゝ唯一朝の夢ゝして印紙條例ゝ止みたりしも又も英吉利の國會ゝ亞米利加人民ゝ租稅を課する道理のなきゝ非ずとて之を議事堂ゝ申し出し既に實行の場合ゝ至りしかゞ亞米利加の人民ゝ爰ゝ至りて更ゝ種々の疑惑を起しいよ〳〵革命の端を萌して不穩の有樣を現わしけり扨も又千七百六十七年我後櫻町天皇の六月二十九日ゝ英吉利の國王 George 第三世の明和三年ゝ爰ゝ一の條例を發行したり此條例ゝ亞米利加の人民に租稅を課するゝ於て代議士を出すの權利を許ざるとも必ず之を納むべき道理を附けし者ゝして紙類硝子茶ペンキの類を亞米利加ゝ輸入せし時にゝ其人民より租稅を拂ふべき箇條ありしも亞米利加の人民ゝ之ゝ對して夫の砂糖條例及び印紙條例の如く喋々啄々を容れざりしが今亞米利加の人民ゝ是等の些細なる租稅を拂ふゝ決して差支へいなのるべきも國王ゝ

其人民の承諾あるや否やを待たず妄りに此等の品物に租稅を課することありてい何ん時又も他の物に租稅を課するも計り難しされば租稅の定限い何れの處に止まるべきや之を思へば同勢い此儘隨ふべきに非ずと又も之を主張せーに本國英吉利の政府よりい一の道理を作り來て本國政府い亞米利加の殖民を保護する爲めにとて其戰爭の費用を出し殆んと四千萬弗の金額を拂ひたりされば亞米利加の人民い固より其費用を償ふべき義務を本國に盡すべきに何ありて無法にも之を嫌ふや又亞米利加の人民いこれまで同勢の間に於て麥酒ボルト酒林檎酒茶珈琲糖密の類にも重き租稅を課して自ら之を拂ひしに何ありて今や本國に租稅を拂ひ能わざるや又亞米利加の人民い頻りに代議士を撰擧する權利のあるを不滿に思ひ租稅を拂ふの道理あしと論ずる者もあるやに聞きしかこれまで其同勢の間に於てい代議士を國會議場に出さゞりしも自ら重き租稅を拂ひたり今其一ッの證據を擧ぐれば曾て佛蘭私人との一戰に Massachusetts のみにても其同勢い國會に向て代議の者なきに二百萬弗の金を拂ふて二三萬に餘れる兵隊を警護の爲めに費ひしに今い何故本國に租稅を拂ふことを嫌ふやと左も說明に類しさる言詞を以て特更に亞米利加人民に論せしも人民い一同之に對して少しも滿足いかりけり左る程に國王の條例に依りて紙類茗茶硝子の租稅い程なく之を亞米利加に實行せしが又も其他の同勢より設けし各地の會議所にてい本國英吉利の政府より此度其地に兵隊を差し送るべきことに就ていい之に其兵營の地面を與へ且つ其兵隊に入用ある薪木蠟燭宿所の類い一切同勢より拂ふべしとの條例を受けて是非もなく其命令に隨ひしが此時 New york い其土地に屯集を定むる兵隊の費用の半い人民の中より之に支拂ひて其政治官の望みに隨ひ終に鹽醋林檎酒麥酒の類まで供へしが本國政府い亞米利加に又も收稅所と全權大使の館を作り建てんとて其條例の議案を作り國會議場に持ち出せしに議場い異議なく之を可決し其年十一月廿日よりいよ〳〵之を建て初めしに既に三人の全權大使い命令を奉ーて Boston に到着せしが人民い此大使こそ又も種々の名義を設けて租稅を課するの手段ならんと思

ひ込めたる憤怒の情ハ一層之を增しゐけり時ゟ政治官裁判役及び其他役人の給料ハ同勢の會議所より拂ふべき者ゐ非ずして本國政府の手より出しが今此法に據るとき
ハ役人ハ皆人民の爲めゐ盡すの心薄く多くハ國王と國會の道具とならんハ睹易きの道理と云ふも是非ゐけれ却て說く亞米利加の各地方にてハ又も議論百出して或ハ本國ゟ敵すべしと云ひ或ハ一應國王ゟ願書を捧げ出すべしと云ひ人心ハ常ゟ洶々として已むべき樣もわらざりしが千七百六十八年我後櫻町天皇ゟ明和五年Massachusettsの會議所よりハ官吏の給料をも同勢より支拂わんとの趣意ゐ依りいとも謙遜ゐる言詞を用ひて願書を國王ゐ提げ出し他の同勢の代議役及び其總代にハ爰ゟ一ッの廻狀を作り各方の中ゐ於ても同勢の苦難を回復する仕方もあれゞ一致して共ゐ謀るべきことそ宜けれと言ひ送りしに國王ハ願書と廻狀の趣意を見て本國政府の支配の上ゐ不都合千萬のことゐりと大に其請願の次第を拒み且つ同勢の企でし手段を破りて今爰ゟ一致同盟の傾きゐるを未然ゟ防がん心を起し更ゐ政府より廻狀を各地の同勢ゐ送り



ボストン府ファニユイルの會議所

つゝ政府の趣意を說き諭せしも一つも其目的を達せざりしハ實ゟ時節とや云ふなるべし此の時Bostonの商人ハ本國英吉利より特別の品を除きて一切の商賣品ハ輸入を謝絕し一年間ハ一錢も其租稅を出すまじと共ゟ盟ふて本國の品ハ其他の同勢の中ゐあるとも仕入ることなく一同之に決心せしが爰ゐ又一種の困難を同勢の中ゟ起せしハこれまで商賣

取引の上ゑ設けし條例ハいとも寛大の者にして格別束縛もあかりしゐ今や本國の全權大使ハ此商賣取引の上ゑ一ッの條例を施し更に海關の條例を設けたり折しも Mo-deira の地方より一艘の小舟に酒を積み載せ Boston の港ゑ到着せしに其夜政府の役人ハ商賣の條例ゑ背きし者とて直に其酒を沒收し舟をも爰に取押へていと嚴重に番人を附けしに是等の條例を見るよりも Boston の人民ハ心に怒りて忽ち一揆の徒黨を語合ひ一手ハ收税官の家ゑ押し掛け一手ハ其役所ゑ迫りて戸を破り窓を毀ち亂暴狼藉を極めし上ゐも其收税官の所有せし一艘の船を擔きつゝいと快氣に市中を引さ摺り終ゑ之を燒さ棄てしが此時收税所の役人ハ辛くも一命を助からりて漸く其場を逃げ去りけり其後程ゐく本國政府ハ多數の兵隊を送り起し一ハ亞米利加人民の不平を無理にも壓し伏せて平和を保つの目的となし一ゑハ收税の役人が役目を仕遂る道を拔けて租税を促ゞす便利となせしが千七百六十八年我後櫻町天皇の十一月一日に於ていよ〳〵其兵隊の亞米利加州ゑ上陸せしや皆劍附さの鐵砲ゐ彈藥を込みて之を肩にし誰れ人ありてか不滿を懷さて敵對せんとの者もあれど有無を云ゐせず打ち殺さんと云ゐぬ計の權幕ゑて整々堂々と Boston の市中ゐ進み來りしを見るより人民ハ心の底ゐ何奴なるぞ我物顔ゑ我等の市中ゑ横行そるやと口にハ謂わねど一同ゑ深く怒りを發しつゝ皆其兵隊の行列を疾視たり時ゐ Boston の人民より撰擧を受けて應接せし人々ハ其兵隊ゑ下陣を貸すべき場所ハあらずと其逗留を辭退せしも終にハ餘儀なく受け引さて Fanuil と名づけし會議所を貸せしが其翌日ゐ政治官ハ自分一人の考へより既に一般人民の承知を得たる素振を以て又も其他の會議所を兵卒の宿所に貸し渡せしゑ兵隊ハ之を押領せしのみならず二門の野戰砲を前ゑ備へていとも嚴重に警衛せしゑぞ James Otis を始めとし其他の人々も何故に斯く人民を威すが如き手段を無益ゐ用ひるゝやと申し出でしも英吉利人ハ一向受け引く景色あかりしが其後程なく Otis 等の人々ハ其會議所に呼び出され政治官の嚴命を以て此地ゑ逗留する兵隊の費用ハ一切人民より支拂ふべしとのことを傳へしも Otis 等ハ飽まで

之を聽かず終に其場を引きさけりされば Boston の人民へこれまで國王の政治官を戴き且つ國王の收稅官に租稅を納めて不滿おもいと穩かに堪へ忍びしが今や國王より差し送りし兵卒へ我々の會議所を押領し加之あらず我々を壓し伏せんとの意氣込みて常に大砲を前に備へ日曜日の休暇にも笛を吹き大鼓を打ち立て今にも戰爭の起るべき有樣を示して我々の市中を騷がす擧動あるとへ果して如何なる心そや人民へ何れも安堵して枕に就くの時を得んと憤懣の情へいや增して私に獨立の思想を起せしも當時人民の憤發へ尙一二の地方に止まりしが千七百六十九年我後櫻町天皇の始めに至りて亞米利加一般の人民へ一同此心を起しいよ〳〵本國の政府に對して抗抵せんとの思想を發したりしが其年の二月英吉利の國會へ其國王に建白して Massachusetts 其他の各地に一の命令を傳へしめ若し其地の政治官に於て人民の中に叛逆の陰謀を企つる者あるに於てへ嚴しく之が探偵を遂げて容赦なく之を捕て押へ本國英吉利に送り越すべし本國政府へ嚴重に是等の罪人を裁判すべしと公然之を言ひ送りたり此命令の至りしや Virginia 及び北 Caronia の人民へ一層怒りの炎を增し王政黨の政治官が力を極めて壓し付けしも一向之に頓着せず益々本國の政府に對して抗抵せんとの決心を執りしが Massachusetts の方にても其命令の下りしに少しも恐るゝ心なく其同年の五月に於て人民總代の會議を開きしに英吉利の兵隊へ會議所を取り卷き何如なる事を評議するやといと嚴しく見張りしより人民へ暫し會議を見合せ何卒兵隊を引き揚げられよと願ひ出でしに王政黨の政治官へ少しも之を聽かず尙其兵隊を以て堅めければ人民へ是非なく會議の場處を Cambridge に引き移して其政治官を放逐すべき評議をこゝに定めたりしが政治官へ斯くと聞くよりも直に其會の解散を命じたり

明くれば千七百七十年我後櫻町天皇の春に至りて本國英吉利の國會へこれまで亞米利加州に實行せし條例へ其人民の不平不滿を招き來て一も其目的を遂げざりしより爰に其條例を改正して弛か從來の壓制を解きしも亞米利加州の人民へ尙も之に滿足

「ボストンの府の人民

せず且つ英吉利の兵隊い多くBostonの都府に逗留して其府内の人民い恰も他國より兵卒の無益に屯集する思ひを抱き平生不滿の心ある場合を察せず尚爰に永く下陣の摸樣となりしも其府内の人民と兵卒にこれまで彼此の喧嘩口論もあかりしが何時まで斯くてあるべき

英吉利兵に迫る

や其年三月の頃とかや或る日英吉利の兵卒い縄を作れる職人の一の店先きを通りしに職人們い之を誂めて心惡しと思ひけん忽ち之を取巻きて散々ゐ打ち握へしゐ兵卒い辛く其場を逃れ陣屋に走りて仲間を引連れ直ゑ其場に取て返へし思ひ知れやとの權幕ゐて又も散々ゑ

其職人を打ち据へしが市中の人民い大に怒り三月五日の夕暮頃殆んと七時より八時の間お手ゐ手ゐ棒を引提て皆一處お集ひ合ひ King町より State町ゑ勢を揃へて進み出でつゝ我等い英吉利の惡漢等を此市中より放逐すへし彼等い一の用もなく無益に逗留する者ゐちすや追ひ出すべし驅り出そべし英吉利の惡漢等を放逐すべしと憚る色ゐく叫びしが折りこそ又も何物なるや火事ゑ火事よと云ふ聲を聞く間もゐちす急鐘を撞き出し市中の雜沓混雜い左おがら波を打が如く上を下へとの騷動ゑ一揆い市中の會議所を警護せんとて走り付きーに英吉利の番兵い此場お突立ち何奴おるやと聞咎めしを何奴と云ふい何奴ぞや殺せ殺せと呼びわりつゝ見當り次第の物を拾ふて打ち蒐け投げ蒐け押し寄せしが番兵い銳き聲を放ちて狼籍者ゐり亂暴者ゐり早く此場ゑ來られよと呼ぶ間もゐらす數名の兵卒彈藥を込みし鉄砲を取るより早く馳せ出でしゐ一揆の人民い恐るゝ色ゐく尚も其場ゑ群りて手に持つ棒を振り廻ゐし或い氷の塊を拋げ付け惡口雜言止まざりしより兵卒い鉄砲を差向けて今や火蓋を切て放さん權幕ゐりしも尚も屈せず其鐵砲の劒先きに達するまでも犇々と勢ひ込んて詰め掛けーゑ此時一揆の巨魁い其名を Attucks と呼びわりたるいとも大勇の聞へゐりし黑人種の者ゐして一揆の中より十二人の勇者を撰ひて後ゑ隨へ棒を揮ふて兵卒が手ゑ持つ鐵砲を打ち落さんと勢ひ銳とく擊ち蒐りて恐るゝゐよ臆するゐよ彼等い火蓋を切ること叶わじ此惡漢們を打ち殺せよ挫き暮ゑ踏み倒せよと大音上に呼びわりつゝ眞先ゐ進みて番兵の司令官が腕を捻ぢ上げ鐵砲の臺尻を掴み取りて扱てそ今や番兵いいよ〳〵火蓋を切ること叶わじ進め進めと Attucks い又も大音上に呼びしが英吉利の番兵も今い早や制し難しと思ひけんズドンと一發打ち放せー丸ゑ當りて何ぞ堪らん Attucks い忽ち此場に斃れたり時ゑ其他の番兵も得たりや應と云ふよりも一時ゐ鐵砲を打ち放せしゐ二人い又も此場ゑ斃され其他怪我人も多かりしより一揆も最早叶わずとて宛おがら雲の子を散すが如く一時ゐ其場を引き揚げたりされ Boston の市中にてい扨こそ戰爭の始まりーと數千の男女老若い彼方ゑ走り此方

を逃れ謂わん方なき騒動の間もあらず四方より大鼓を打ち喇叭を吹き立て兵器を執れよ覺悟せよと叫びし聲ゝ湧くが如く修羅の巷も目の前に今や開かん勢とありしが英吉利の大將ゝ徐々と鎮撫の事ゝ力を盡し人民に對して火蓋を切りし無法の番兵を拘引し其政治官ゝ市中を廻りて其一揆の者を向ひ早く此場を引き揚げて各々靜かゝ家に歸れと心を籠めて說き諭せしより漸く此場の騒動も一時ゝ全く止みをけり尋で其翌朝英吉利の大將ゝ市中の下陣を引き拂ひて其警衛に設けたる市中を離れ William Castle と名づけし砦ゝ兵隊を移し聊か安穩を計り爲めゝ其後ゝ暫し何事もなく至極平和に治まりしが此騒動ゝ打ち殺されし Attucks 及び其他の二人ゝ三月八日ゝ葬式を行ひたり此日 Boston の商賈店ゝ皆一同ゝ戸を鎖して此三人ゝ弔意を表し其葬式の鈴を鳴せしや其近邊の市中よりも之ゝ應して鈴を鳴らしいとも盛大なる儀式を以て其地の墓所ゝ送りしとあん其後英吉利の大將ゝ程なく番兵の裁判を初めて其二人を禁獄に處し其六人ゝ無罪を以て放免せしも當時有名の法學士にして Jhon Adam と Josiah Quincy と云へる二人の辨護に依りしとなん

其後一二年の間ゝ別段亞米利加の事情の上に平和を保つべき手段もあらざりしが自然平和の傾向を生じて商人ゝ再び英吉利より無益と定めし茶を除きて種々の物品を買ひ初め交際を開き酒宴を張りし仲間も各地ゝ多かりしが此時收稅の役人ゝいとも人民ゝ賤しめられ大抵の事ゝ人民と約束の法ゝ隨ひて其取扱をなすゝ至りたり頃しも千七百七十一年我後櫻町天皇の明和八年或る日一の役人が Boston ゝ在りて一艘の船ゝ條例ゝ背きし者とし直に其船を取押へんとせしゝ徒黨ゝ却て役人を捕へ衣服を剝ぎて丸裸とをし荷車ゝ載せて市中を引き廻わし其總身に油を塗りて鳥の羽を之ゝ粘し附け大に侮辱を加へしことあり以て當時の人民が其役人を賤しめたる一の擧動を見るゝ足るべし此同年ゝ程もなく北 Carolina の役人ゝ又も人民との不和を起したり此時ゝ當りて本國政府の命令を奉して亞米利加の各地ゝ支配を施せし政治官ゝ皆一同に唯國王の利益を謀りて只管人民より費用を出さしめ政治の二字を口實として自分

の權威を推し擴めん熱心の外に餘事もなく其附屬の役人も所謂虎の威を借りし狐心を蓄へて無法の權柄を人民に振ひ政治の名義を表に飾りて內實自分の身代を富さん工夫を盡せしが北 Carolina にても亦齊しく裁判收稅の役人より其他の役人に至るまで皆此例に倣ひ來て少しも人民の有樣を察せず不正の租稅を取り立てしより人民に迎も堪へ難しとて自分の財產を守護する爲めわこゝに一の黨派を組み立てたり此黨派を Regulater と云ふ乃ち自ら規則を設けて自ら支配すべしとの意味を含みし言詞に依りて斯くに其名を附けしなり此黨派の人數に總計一千五百に餘りて政府の命令法則に反對し且つ其役人に反對せんと決心したる一類なりしが當時北 Carolina の政治官 Tryon に此黨派こそ果して治安に妨害ある容易ならざる者と看認め直に兵隊を差し向けて攻め來りしも黨派の人に唯從來の規則を以て行ふるこそ望まーと云ふより他に異存もなくいとも平和の手段を以て其反對を試みし者なれば今兵隊に攻め寇けられ武器彈藥の準備もなく皆一驚を喫したりーが忽ち散々に擊ち破られて

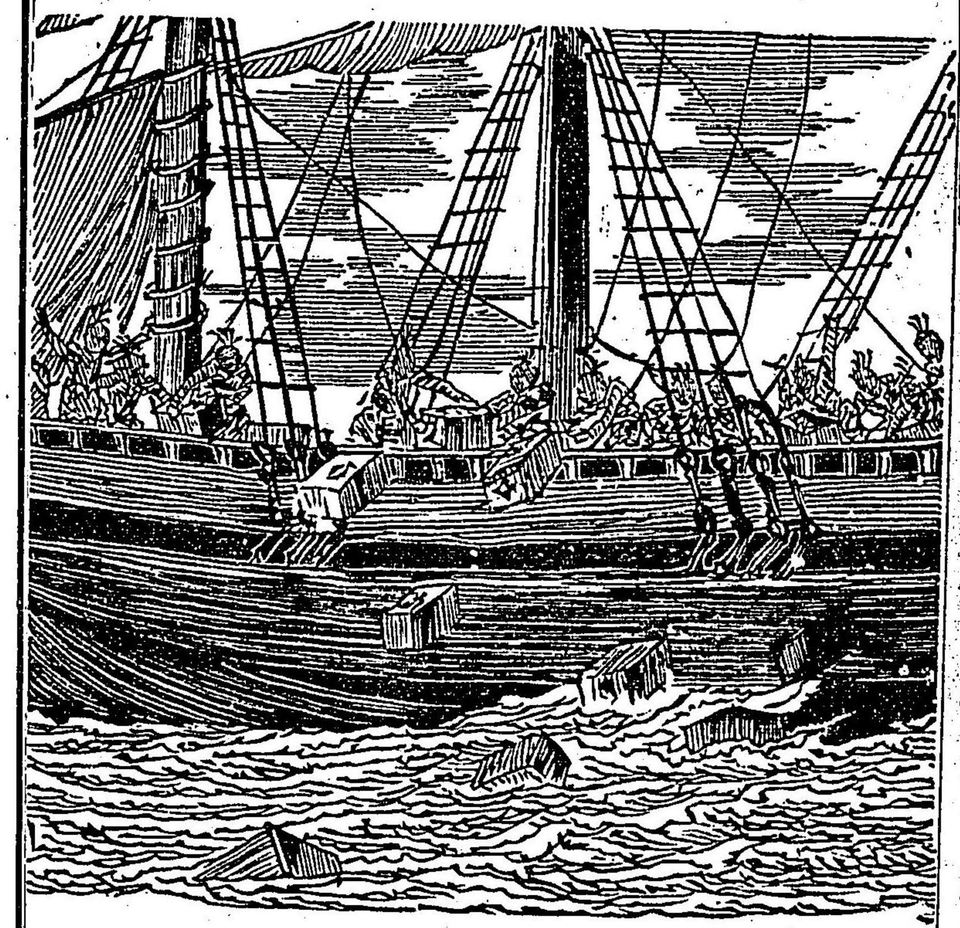
三百人に此場に斃れ多人數爰に召捕れしは皆反逆の重罪を以て論せられ程なく死刑に處せられたり尋て其土地の善き場處に皆政治官と役人との所有物にと取り上げられ生殘りたる黨派の人々に今に其地に居ること叶わず或に政治官の配下に附屬ー或に西の地方に走りし者あり但し此同勢に Cherokees 土人より土地を求めて隨意に一の共和政治を組み立てーが後日に至りて此土地に Tennesee の國とありたり其後北 Carolina の政治官なる Tryon に自分の不注意より二十萬弗の借財を拂わん樣もなく幸ひ New york の政治官に轉任そべき時を得て速に其地を立ち去りけりそれより千七百七十二年我後桃園天皇に又も Rhode 島の方に於て一の事情こそ現われーに兼ねて英吉利國王の軍船に屬そる Gaspee 号に Provincence に錨を卸して商賣條例に背きし者を注意せんとの役目を帶ひーが或に人民の財產を强奪ー或に市人の持船を燒き或に着船の積荷を取り上る等いとも亂暴の事を行ひしに Rhode 島の人民に皆此軍船に恨を重ね何時かに仇を報ゆるの時もあらんと待ち擇へーに或る時一艘

の客船ありて Providence ゐ到着せーを見るより軍船の Gaspee 号ハ其船の旗を卷き下けよと申し付けしも一向よ聞くべき模樣もあかりけれバこハ失禮あり無禮ありと云ふより早く錨を揚げ直に其船を取押さへんとて彼方此方よ追ひ廻わせしよ此有樣を遙に眺めて機會こそ宜けれと Rhode 島の人民ハ竊よ其夜に乘して數艘の船に兵器を準備し船將 Wipple を指揮官とゐし Gaspee 号よ襲ひ掛りて遂に其船を燒き沈めたりされバ本國政府の役人ハ此等の暴乱人を罰せんとてその探偵を盡せし上に萬一其犯罪人の在所を告發する者もあれバ之に五百磅一磅ハ我の賞金を與ふべしと廣く世間ゐ告げたりしも終よ其効ハあかりけり此時亞米利加の商人ハ又も本國英吉利より輸出し來れる品ハ一切決して之を引き取らず一錢たりとも其品の租稅を拂ふべからずとて一同こゝよ決心せしより其差響ハ數千里の大西洋を懸隔てし本國英吉利の商人社會にいとも速よ及ひ來て本國の商人も詮術あく一致連印の建白書を作りて之を國會よ差し出せしゲ千七百七十年我後櫻町天皇ゐ Lord North ハ國會の議の明和八年



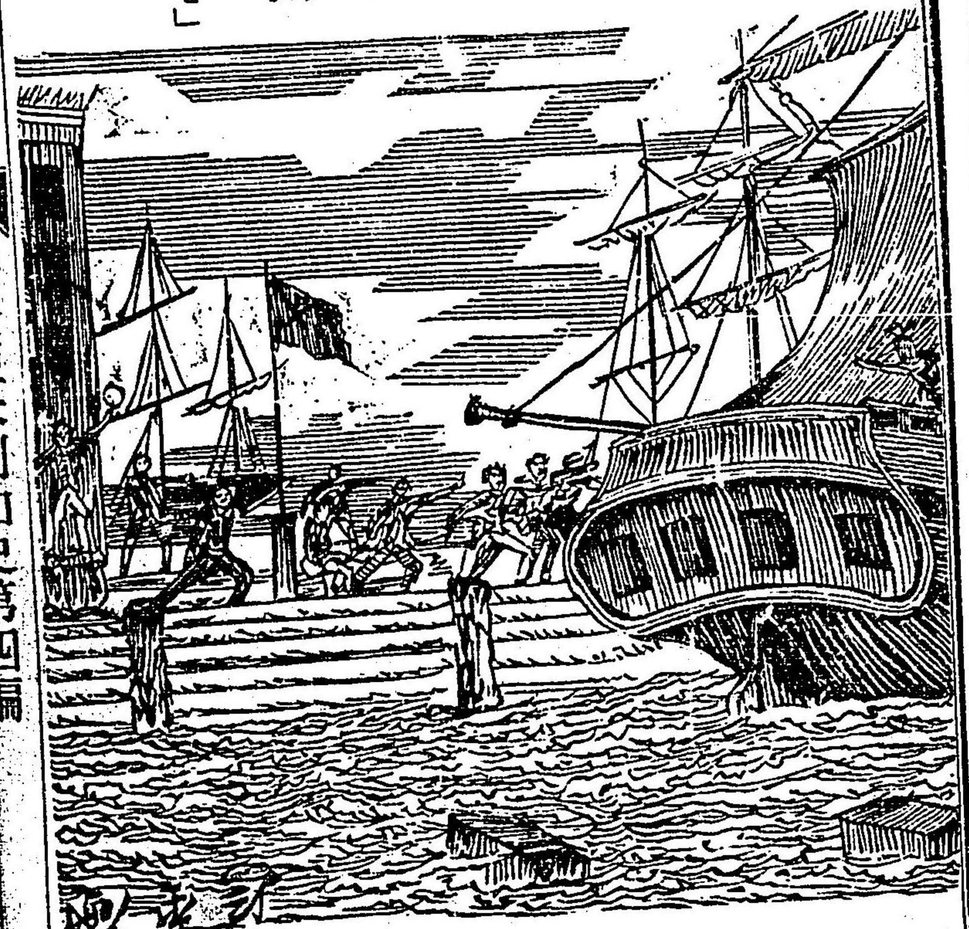
長の椅子に座を占めて商人社會の建白を容れ其品々の租稅を廢せしも尙も本國國會の威光を示さん心よや唯茶の租稅のみ除かざりしが亞米利加人民ハ其租稅を拂ふゐ苦しむ心よりも如何ゐも本國國會の底意地あしき擧動てそ我們の滿足を得難しと一同茶を飲むことを廢し且つ其決心を一致せんとて一種自由の友と名づけし黨派を四方ゐ組み立てたりされバ亞米利加の人民ハ斷然として茶を飲むことを一同こゝよ廢せしより離れとて之を求むる者あく其茶ハ英吉利の市場に積りて賣捌くべき道あきより大に商人の困難を來せしに英吉利の國會ハ力を添へて千七百七十三年我後桃園天皇の安よ其茶を東印度會社の一手ゐ任せ本國政府よ納むべき租稅を免ーて亞米利永二年加よ輸出すべーとの免許を與へしが此次第にて其茶の直段ハ本國英吉利より亞米利加に一層安直の物となりて一磅十匁「ペンス」より六 Cents「セント」一 Pence ハ我五厘餘一「ペンス」ハ我百二の茶ハ三 Pence 一ッしハ迄の價とあり法外もなく捨て賣りせバ亞米利加人民も喜びて果して之を求我一錢むるならんと見込を立てし東印度會社ハ數艘の大船に其茶を積み載せ亞米利加指ー

「ボストンの府人民



て送り遣りしが何ぞ圖らん亞米利加よてい誰れとて受け引く者もなく少しも其茶の賣れざりーより更ゑ數艘の小船ゑ分ちて其茶を之ゑ積み載せつゝ Philadelphia, New york, Charleston 南 Carolina 及び Boston ゑ赴かしめ其の賣れ口を求めしに Philadephia と New

「茶櫃を海中ゑ投ず」



yorkの人民いそれと見るよりも嚴しく茶櫃の陸揚を拒み之を London に追ひ返へしたり又た Charleston の人民い其陸揚を許せしかども少しも之ゑ積み藏を貸さず爲めに是非なく濕潤の多き穴藏に之を積み置きしに其茶い忽ち腐敗して空しく之を失ひたり又 Boston 府の人

民ハ嚴しく其茶の陸揚を拒みて London ヲ追ひ返へさんとせしも其地の政治官ハ之を制して其陸揚を許したりしが今や各地の政治官ハ折角本國の英吉利より遙々多分の茶を積みて亞米利加州ヲ到着せしヲ其人民ハ一致して誰とて之を買ふ者なく空しく本國ヲ積み返へすも東印度會社の爲めを思へバ實に氣の毒と思ひきや壓制を以て人民ヨ其茶の取引を命せしに人民ハいとも不平を起して又も喧しく議論を生し其年十二月の十六日ヨ七千人の同勢ハ皆一同ヨ集ひ合ひしが中ヲも Adam Quincy 等ハ其同勢の中ヲ突立ち誰れヨ憚る色もなく喋々として口を極め今我們の政治官が東印度會社の茶を以て壓制にも之を賣り付けんとハ如何なる存意のある事かやと慷慨悲憤の演説を爲せしが日の暮れしより程もなく此集會の終りを告げし折しも印度土人の扮裝ヨて獨り小舟の上に突立ち何者なるや大音揚げて戰爭なり戰爭なりと叫びし聲を聞く間もあらず五十人餘の同勢ハ皆土人の扮裝ヨて波止場の方へと馳せ向ひつゝ爰ヨ三艘の茶を積みし英吉利船のあるを目蒐て難なく之ヨ飛び上り手當り次第に茶櫃を執りて我も我もと抛げ棄て抛げ込み其數三百四十の茶櫃ハ皆海中ヨ投じけりされども此狼藉ヲ誰れとて敵せし者もなく十分事を仕遂げたりとていとも正しく行列を整へ意氣揚々と引き揚げしが丁度此同勢ハ船將 Montague の門前を通りしヨ Montague ハ内より窓を開き善ひ哉汝ヨ汝等ヨ汝等ハ今夜土人の踊舞にいとも樂しき夜を得たりされども汝等ハ弓引く人ヨ今夜の樂ヨ拂ふべき價値のあるを思へよやと言ひ放ちしヨ同勢の一人ハ之に返答して我等ハ決して之を思ヨず我們ハ決して之を思わず船將足下ヨ心もあらバ戸外に出でゝ來られかし我們ハ二分時の間ヨ於て東印度會社の免狀を難なく奪ひ取るべしと云ひしを聞きて Montague ハ其免狀ハ今暫し其儘置くこそ宜しからんと云ひつゝ窓を鎖せしとあん

左れハ此事の千七百七十四年我後桃園天皇ヨ於て早くも本國英吉利に聞へしより本國政府ハ大ヨ怒りて扨こそ亞米利加の人民ハ何如ヨ蒙昧無智とハ謂へ斯くまで無法の擧動ありてハ最早棄て置くべきに非ず飽まで之ヲ嚴罰を加へ其後來を懲らしめよ

とていよ〳〵其方法を決定せーが此決定の實行を始めて亞米利加に現ゼしい乃ち Boston の都府よありて此地の商賣を壞らんが爲めにい總て品物の上陸を禁し四方取引の品々い砦の中ゑ容れしが如く全く之を取圍みていとも嚴重よ見張を附けたりて其同年の六月一日の事にして此規則を Boston Port Bill「ボストン」と云ふ但し府海港視則と云ふ但し此規則い啻よ Boston に施せしのみならず亞米利加一般よ及びしより人民い益々怒を積み互ゑ四方より寄り集ひて League 契約及び Covenant 一と名づけし一ッの連判を作り商人い最早英吉利と斷然交易を絶つことに決したり此時 Virginia の會議所にてい本國政府が復讐よ齊しき規則を設けしと聞くより一同會議を開きて痛くも其非を論せしよ其政治官の Dunmore い其會議を有害と看做し翌日直ゑ解散を命せしより是非ゑく其場を立ち去りしが又も竊に場處を撰びて各々之に寄り集ひ本國政府が一地方の人民を壓する所業われい是れ各地の人民を脅そる次第に異あらずこれに就てい亞米利加の各地に住みし人民より各々委員を撰み出し其ゑ今日一致して事を



謀ることを宜しからんと此場ゑ之を決せしが恰度 Massachusetts の方ゑても齊しく此目的を決し亞米利加各地の人民よ其目的を通達せしよ皆同意の旨を表わー此同年の九月を期して各地の人民い總代を撰み Philadelphia に出會ゼんとて其約束を結びしいこれぞ乃ち亞米利加よ獨立の國會を開きたる端緒とこそい知られたり此時英吉利の將官 Gage と云へるい本國政府の命令よ由りて Massachusetts の政治官となりーグ其處置特よ疎暴よ渡りて大よ革命の大亂を促せし所あるに似たり此 Gage の政治官とありしや自由の原素を絶たんとするよい Samuel Adams の一人を上等の官位よ勸め込み之を我手ゑ附けもせゞ其他い掌を反へすより心易ーと思ひ初め或る時使者を Adams よ送りて內意を諭せしよ Adams い性來正義の士ゑして特更 Boston の人民ゲ義よ勇みたる擧動も此 Adams が煽ぎ立てーゑ起りし者と云ひし程よて後の日 Jefferson い Adams を評議よい賢てく手段にい富み其目的い動うし難く其勇氣い制ー難しと評せし程の人物ありしが何にとて今や政治官の Gage が一時の係蹄

に懸けられ其官位ゐ眼眩まん Adams ゝ其使者ゑ打向ひ我ゝ久しく各國の王に王たる天帝と和睦の心を結びし者ゐり假にも人たるの思想あれゞ我生國の權利ゑ係わる原素ゝ決して抛ち難ー汝ゝ歸りて政治官の Gage に能くも語り玉へ最早亞米利加人民の怒を重ねし思想ゑ對ー侮るべきの時ゐらぎこれ此 Adams が一言の忠告を致そ所なりと言ひ送りしこそ健氣ゐれ時に Gage ゝ今こゝに亞米利加人民ゲ League 契約と云へる一ッの仲間を組立てしいこれぞ本國政府に對する叛逆の擧動ゑ當るべしとて公然之を布告せしに Boston の人民ゝ之ゑ對し Gage の布告こそ叛逆ゐるべし苟ゑも League 契約ゑ連判を辞退せんとの人もわれゞ何人を問ねず亞米利加の敵人とこそ看做そべーと恐れ氣もゐく答へけり

扨も又千七百七十四年我後桃園天皇の六月ゑ Massachusetts の人民總代ゝ Salem と云へる處ゑ集會して各地一般の集會ゐ出頭すべき委員を撰擧せしが其他各地の人民も各々其總代を撰擧し當時十一國ゑ分れたる各地の總代ゐ撰擧を受けし者ゝ一致同盟の旨を以て其同年の九月五日いよ〳〵 Philadelphia ゐ集りて始めて亞米利加に獨立せし第一回の國會を開きしが Peyton Randolph ゝ議長ゐ撰まれ Charles Thompson ゝ書記官ゑ撰まれたり其議員の席ゑ就きしゝ Samuel Adams, Washington, Richard Henry Lee 及び Patrick Henry 等總計五十三人ゐりしが孰れも當時亞米利加ゑ指を屈する英雄豪傑智士義人の面々ゐして議場ゝ自ら威儀正しく同情同感の義勇を發し一二の異議もゐらずして斷然英吉利に隨わずと一言の下ゑ亞米利加の今後將來を決せしゝ實に爽快ゐる獨立の基を立てし結果にして思ひ遣るさへ羨ましけれ

今や亞米利加ゑ獨立して開きし第一の國會ゝ斷然英吉利に隨ずと一言の下ゑ決せしより直に一般人民に我權利の何如を公布し且つ今後ゝ何如ゐる物も決して英吉利ゑ賣るべからず亦決して買ふべからずとの事を定め猶又英吉利の國王にゝ願書を呈し其人民ゐゝ書狀を送り Canada の住民ゐゝ意見書を廻わしたり此國會の日限ゝ殆んど八週間に渉りしが其散會に先ちて若し亞米利加人民の苦痛ゝ今日に異ならず永

く免れ難しとあれゝ明年五月の十日に於て再び此地に集るべけれゝ各地の人民ゝ成るべくだけ其日を期して晩れざる樣其總代を差し出すべしと堅く其場ゝ約束して各〻其地に歸りけり此亞米利加人民の總代よりして英吉利の國王と及び人民ゝ送りし書狀を讀み過して當時英吉利の宰相たりし Pitt ゝ之に評論を下し我がこれ迄修めたる學問ゝ依りて推し量るゝ凡そ世界ゝ獨立して自ら其國を支配するにゝ確實の道理銳敏の力及び決斷の智惠を要する等斯く錯雜なる事情の上ゝ成り立ち來れる者あるに此回亞米利加の Philadelphia ゝ會議を開きし總代ゝ亦所謂一ッの國民或ゝ一の衆体を以て成り立ち得たる者ならぎと我ゝ之を告げ知らすべし乃ち之を公布すべしといとも輕蔑せし言詞を放ちしゝ實ゝ愚のなる始末とや申すべけれ時ゝ亞米利加人民の自由を欲する精神より飽まで英吉利ゝ抗敵して自分の權利を主張する氣力ゝいよ〳〵發達し數ゝ足らざる童子まで十分此氣力を養成せし勢を現わせしゝ英吉利兵隊の Boston ゝ逗留せしや兼ねて Boston の童子等ゝ多の日雪を掻き集め築山を作り



「ボストンの童子等事を英吉利の大將ゝ訴ふ」

家形を成し池に結びし氷の上ゝ放ちて無上の遊戯とせり習慣ありしが或る日のことゝか英吉利の兵卒ゝ戯れに其童子等が築き立てし雪の築山を毀ちしゝ童子等ゝ亦も之を築き學校よりの歸路に其築山を見んとせしゝ又も全く打ち崩して跡方あきを看認めしより皆大ゝ腹を立て英吉利の大將 Gage を待ちて其兵卒の無法を訴へしに Gage ゝ之を意に

留めす笑を含みて立ち去りしが兵卒ハ其童子等が我大將に打ち向ひ生意氣ヨリ之を訴へしやと心惡さのいや增して尙も童子等の遊戯を妨げしヲ童子の中ヨ長年けし仲間ハ一同の名代となり或る時 Gage ○陣屋ヲ到りて我等ヲ面會致されたしと申し入れしにゆどもおく Gage ハこゝヨ出で來り汝等ハ何故多勢にて我ヨ面會を乞ひ入れしやと問を掛けしヲ一人の脊高き童子ハ之ヨ答へ我等ハ我等の滿足を願わん爲めに來りしと謂ひしを聞きて Gage ハ亦汝等ハ何如なる事を云ふや汝等の父ハ汝等ヨまで謀叛の企を敎へしや汝等ハ亦こゝヲ來りて謀叛の手始めを現わすやと問ひたる言詞ヲ童子等ハ眼を瞋らし顏を赤くし誰人ありてか我等を送らん我等ハ足下の兵隊ヨこれまで一の害を與へず然るヲ足下の兵卒ハ數々我等ゲ雪を以て作り立てたる築山を崩し且つ我が之を放つべき池の氷をも打ち毀ちたり爲めに我等ハ兵卒ヨ向て之を止めしも足下の兵卒ハ我等に對ー汝等も亦反逆人あり防ぎの手段もありもせゞ自ら防ぎを付けて見よと言ひ放ちたる言語こそ何如ヲも不滿に思ひしより之を足下ヨ訴へしに足下ハ我等を笑ひたり昨日も我等が作り立てし雪の小山を三度まで足下の兵卒ヨ打ち崩されしゲ最早堪忍ハ成り難しと言ひ放ちたる言詞を聞きて大將 Gage ハ稍暫し默して言詞もおかりしゲ傍ヲ在りし軍役ヨ彼等ハ彼等の呼吸そる空氣と共ヨ既ヨ早や自由を愛するの道を知れりと話せし後ヨ童子ヲ向ひ我大胆なる童子等ヨ汝等ハ最早立ち去るべし必ず安心致されヨ我能く之を承知せり此後若しも兵卒が再び汝等ヨ妨けあゞ我ハ之を罰せんと答へー言詞ヨ滿足してさらゞれより引き取らんと童子ハ此場を立ち去りしが實に自由の精神ハ充分亞米利加の人民に充滿しゐるの勢を見るべし

扨も又 Virginia の會議所にてハ千七百七十七年の安永七年我後桃園天皇の三月ヨ其人民の集會を催ふせしが Patrick Henry ハ此席ヨ在りて到底英吉利との開戰ハ免れ難き始末ありとて大に戰爭の用意を主張し一同之に決定せしが Patrick Henry ハ雄辯を揮ふて一座の人を感奮せし其演說の終りヲ至り屹と四方に眼を配りて諸君ハこれより何

れよ向て其方針を執るゝや我一身の方向に就ては我よ自由を與へよ然らざれば我よ死を與へよと斷言するの外いあらじと勢ひ込んてぞ述べ立てけり此時よ當りて英吉利政府と亞米利加人民との困難いいよ〳〵切迫ゐ切迫して免れ難き戰の端を開かん勢の期日も既ゐ近きたれバこれより亞米利加の全州い長く砲烟彈雨に蔽われ闇夜ゐ齊しき苦境に沈みしも漸く戰の塵を收めて晴空一點の曇りもなく新よ獨立の鏡を懸け其日月の光を發せしい尚十餘年の後にありて今や亞米利加の人民い公然英吉利の政府よ對しいよ〳〵革命の大亂を起すの時ゐ至りけり

挿画平つゝ
假名附通俗亞米利加史第四編終


明治二十年十月四日版權免許

明治二十年十二月　出版

正價三十五錢

譯纂兼出板人　岐阜縣士族　江馬春熙　東京府神田區三河町壹丁目七番地寄留

發賣本舗　隆湊堂　湊屋　山本常次郎　東京淺草區壽町四十三番地

大日本帝國郵便
10 銭
26 銭
76 銭
郵便葉書

法律図書ホルダー

大日本帝國議會圖書館
一
五函
二
架
〇
號
四
一
〇
五
排